奥手賀・水辺の拠点

マスターコンセプトブック2020

WHERE NEW ADVENTURES BEGIN

ヌマベクラブとともに
公民学漁の冒険はじまる

....

奥手賀・水辺の拠点マスターコンセプトブック2020

マスターコンセプトって？

「マスターコンセプト」とは従来の行政が一義的に定め実行する「マスタープラン」とは異なり、エリアに関わる行政・民間・市民・学識が共通で掲げ、それぞれの立場から実践し、試行錯誤しながら随時改定することも許容する、柔軟なまちづくりの方針です。

INDEX
目次

はじめに …… 6

第一部 「水辺の拠点」のこれまでとこれから

1. フィロソフィー 「冒険」を育てる行動哲学 …… 14
2. フォーカス 「水辺の拠点」はなぜ大切か …… 22
3. リボーン 「水辺の拠点」で芽生えていること …… 32
4. ヌマベクラブ みんなで楽しむ水辺を目指して …… 44

第二部 「水辺の拠点」発・未来ビジョン素案

5. ヌマベリング 人と沼の接点を広げていく …… 70
6. 奥手賀エリア 「水辺の拠点」から「奥手賀」へ …… 78
7. ヌマベの再生 ひとつながりのヌマベを目指して …… 84

マスターコンセプトブックに寄せて …… 102

手賀沼に魅せられて

　手賀沼周辺地域は、柏市のなかでも特異な農業を基幹産業とする農村地域であり、江戸時代から続く干拓事業により整備されたまさに原風景と言えるような一面に広がる田んぼや、湖畔に沈む夕日を楽しむことができる、市内でも屈指の風光明媚なエリアです。また、古くは鴨猟やウナギ漁も行われ、都内に向けた水産資源の産地としても名の知れた地域だったそうです。

　首都圏のベットタウンとして都市人口が急速に増加した柏市ですが、それに伴う生活雑排水の流入により手賀沼は「日本一汚い沼」となり、さらには、福島原子力発電所の事故に起因するホットスポットとしての被害も重なり、かつての「手賀沼の魅力」が失われつつあります。このような背景から、柏市では手賀沼地域全体の新たな魅力創出や活性化を目的とする「手賀沼アグリビジネスパーク事業」を策定し、本事業の推進協議会や東京大学、手賀沼漁協の皆様と連携をしながら、手賀沼フィッシングセンター内に「水辺の拠点」を整備致しました。

　成り立ちも立地も官民連携である本拠点は、今後の活用にあたっても官民の垣根を超え、手賀沼に魅力を感じ地域に継続的に関わる様々な関係人口を取り込みながら、別の特色と役割を持つ施設としての発展を目指しています。そんな官民手を取り合った、手賀沼の更なる魅力向上への「道しるべ」として、このマスターコンセプトが寄与することを期待しています。

柏市役所経済産業部農政課
アグリビジネス担当

未来につづく「奥手賀」を目指して

　平成 28 年に設立した手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会は、「しょうなん地域の価値（モノ）を引き出し（コト化）、地域の未来に貢献する」というビジョンを掲げ、この地域の「農と食と人をつなぐ仲介者」として、地域の活力ある未来づくりにつながる活動を推進してきました。特に令和元年度に完成いたしました「水辺の拠点」（手賀沼フィッシングセンター）は、手賀沼エリアの玄関口「道の駅しょうなん」と「奥手賀エリア」をつなぐ重要な拠点として位置づけ、緑と水資源豊富な手賀沼湖畔の環境を活かしたアクティビティの拠点として、公民学漁が連携して整備を進めております。

　しょうなん地域の東端、奥手賀エリアは江戸時代から変わらぬ風景を保ち、半農半漁を生業とした地域の方々の歴史や文化が色濃く残る、豊かな地域です。大きく開けた空は時間をゆっくりと感じさせ、眼前に広がる湖面と田んぼの風景に心が和みます。

　しかしながら、他地域同様に漁業・農業の衰退、高度経済成長期の環境汚染、歯止めのかからない地域の人口減少は、奥手賀エリアの活力ある持続を揺るがしています。

　この「水辺の拠点」がそうした地域課題の解決の糸口となるよう、手賀沼を楽しむ様々な人々を呼び込み、つなげ、手賀沼の歴史と文化をともに継承し、手賀沼への愛着を醸成する場として、未来にわたって発展していくことを願っています。

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会
副会長　油原祐貴

手賀沼の環境を守りながら

　手賀沼の漁業は、担い手の不足や 3.11 による被害等の影響を受け、残念ながら年々縮小の一途を辿っています。我々漁協の経営の支えであった手賀沼観光も、ボートや釣りをはじめ従来的なものは随分とニーズを減らしました。私が組合長を仰せつかった頃、手賀沼フィッシングセンターの奥にあったヘラブナの釣り堀利用者は、１日あたりわずか１人か２人。それも常連が顔パスで料金も払わずに利用している。そんな状況にショックを受けたものです。

　そこに、当時右肩上がりだったあるソーラー発電事業者が手賀沼フィッシングセンターに目をつけて、施設の空き地や遊休池にパネルを敷き詰めてはどうかと提案を持ちかけてきました。漁協の内部で意見は二分しましたが、私は反対でした。手賀沼を訪れる人たちはこれまでもこれからも、この自然豊かな環境に癒しを求めて訪れるはずです。ここにパネルを敷き詰めてしまっては、手賀沼の価値が台無しになってしまう。そう感じたからです。

　いま思えばこの判断は正解でした。直後、地域野菜を生かしたカフェや自然環境を生かしたバーベキュー・キャンプなどを営む油原さんを中心に、協議会や東大の支援も得て、今までの我々になかった発想で「ヌマベ」の再生が始まりました。我々漁協も、なりわいの継続を第一に、沼での様々な経験とノウハウを生かして、できる限り皆さんと一緒に歩んでいきたいと思っています。

手賀沼漁業協同組合
代表理事組合長　川村義雄

沼の視点から地域を描きつづける

　これまでの都市計画は、都市の視点から沼をつくりかえてきました。しかし持続可能性・生物多様性が誰しもの前提となったこれからの時代は、沼の視点から都市をつくりかえることが求められるでしょう。沼を中心に、文化のまち・我孫子、古くからの商業中心・柏、最も住みやすい街・印西、スマートシティ・柏の葉。都心まで 30 分。ここは、なんと恵まれた暮らしの場でしょうか。

　環境と共生する都市を考える時、自分たちの身の回りの改善を役所まかせ・専門家まかせにすることなく、地元市民や地元企業を含めた公民学漁連携のもと、自ら働きかけていくことが重要なのは言うまでもないことですが、深く環境問題と戦い続けてきた手賀沼流域は、その下地をすでに力強く備えているということに疑いの余地はありません。それは私たちが、手賀沼をフィールドに活動させて頂いてきた中で、切々と感じてきた事実です。

　「水辺の拠点」の空間デザインをきっかけに手賀沼に関わる機会を頂いた私たち都市デザイン研究室は、一貫して人と沼の接点「ヌマベ」を大切に空間づくりと活用に努めてきました。その中で「長期視点でのビジョンの提示」「いまできるアクション」「その結果の記録と考察」の３つを循環するうち、辿り着くようにしてこのマスターコンセプトは生まれました。そんな循環を今後もより多くの地域の方々と続けながら、いわば「常に途中」のマスターコンセプトがアップデートされ続けることを願います。

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室　助教　永野真義

奥手賀

「水辺の拠点」
（手賀沼フィッシングセンター）

紹介

水産会館・広場

観察池

釣り堀

キャンプ・BBQ 場

桟橋・堤外地

水門

テラス

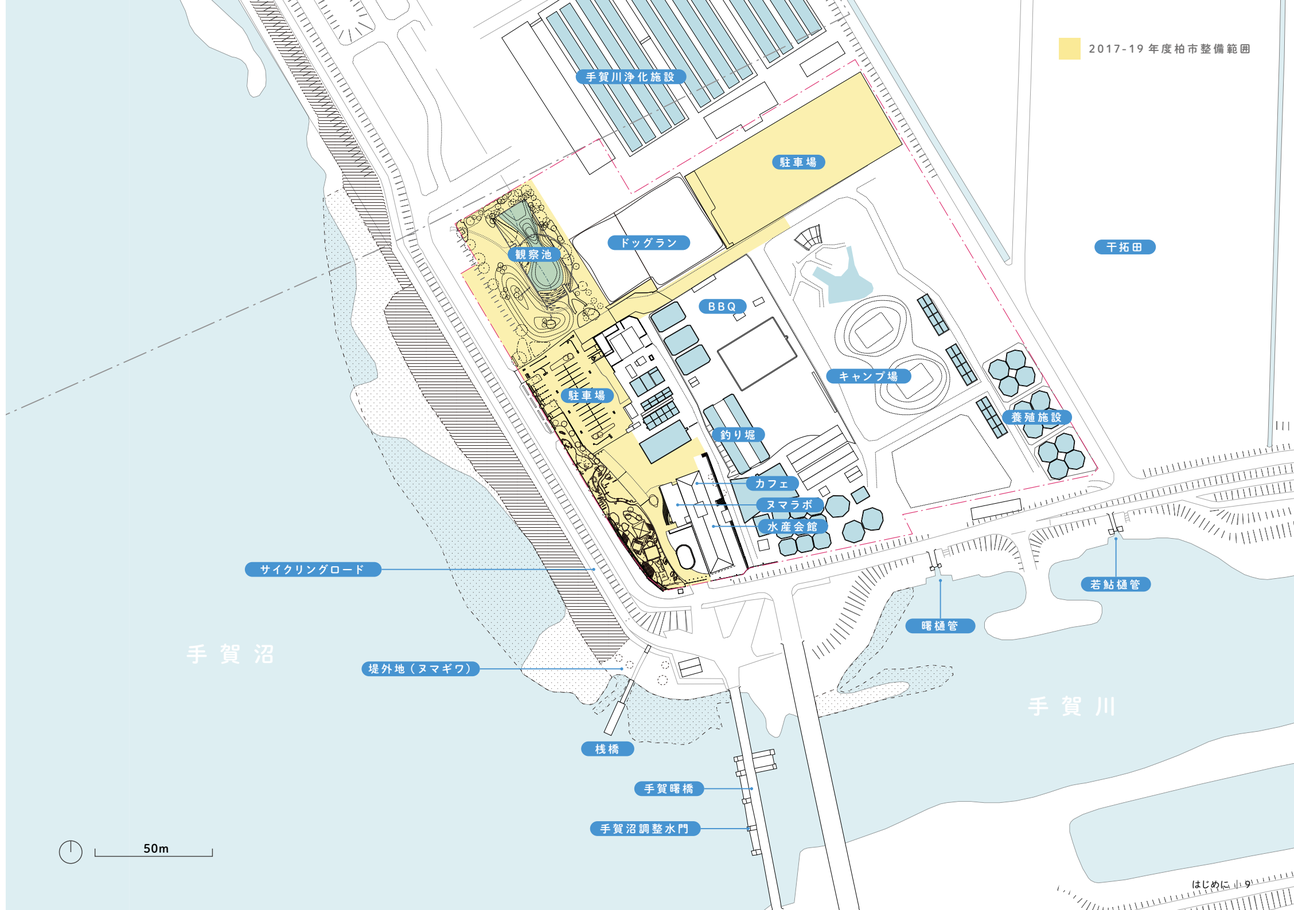
散策路

カフェ

ドッグラン

駐車場

干拓田



SECTION 1

PHILOSOPHY

冒険を育てる行動哲学

ジモトが遊び学ぶ
ヌマベの学校
EXPERIENCE

コラボレーションを
はぐくむ
TEAMWORK

"わんど"に学ぶ
空間づくりの作法
DESIGN

SECTION 2

FOCUS

「水辺の拠点」はなぜ大切か

人間が干拓で
生み出した土地の
最前線

沼・川・
田んぼ・水路に
囲まれたサイト

柏市と我孫子市に
またがる場所

様々な行政計画の
結節点

SECTION 3

REBORN

「水辺の拠点」で芽生えていること

奥手賀
「水辺の拠点」

2020

SECTION 4,5,6

COLLABORATION

「水辺の拠点」からはじまる3つのコラボレーション

ヌマベクラブ
みんなで楽しむ
ヌマベを目指して

NUMABERING
人と沼が接する場を
広げていく

OKUTEGA BRANDING
「水辺の拠点」から
「奥手賀」へ

SECTION 7

VISION

ヌマベの再生

RESTORATION
ひとつながりの
ヌマベを目指して

第一部　「水辺の拠点」のこれまでとこれから

フィロソフィー
「冒険」を育てる
行動哲学

「フィロソフィー」は「行動哲学」や「信念」を意味する言葉です。
私たちは、何を大切だと思っているから手賀沼にあるいは水辺の拠点に関わるのか、と言い換えてもよいかもしれません。
私たちは「ヌマベ」と「奥手賀」を「冒険」の舞台として育てていくことを、その行動哲学「フィロソフィー」として掲げました。
フィロソフィーを共有し表明しておくことは、①来訪者にとっての価値づくり、②それを支えるチームづくり、③魅力的で持続的な環境づくり、という３点を継続していく上で欠かせないものです。

「ヌマベ」

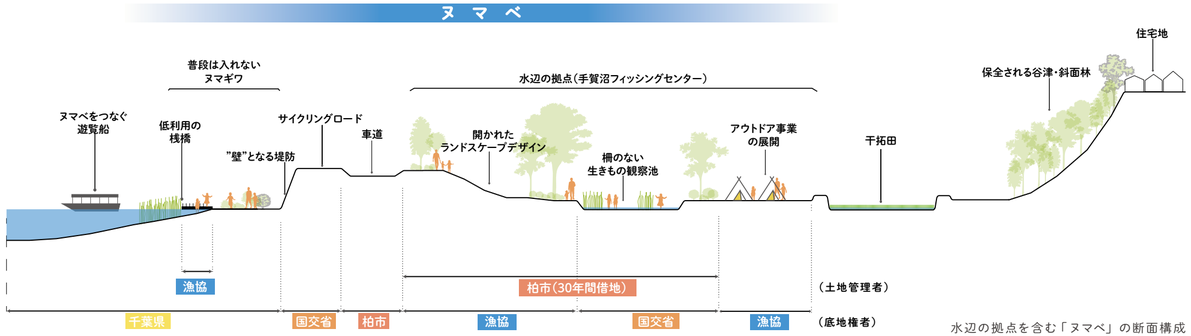
緩やかな地形と豊かなエコトーン
環境の急所と言える大切な場所
様々なアクティビティの舞台

手賀沼の水際環境を「ヌマベ」と呼んでいます。
川や湖と比べてその水際がゆるやかで遠浅な「沼」だからこその、豊かなエコトーンがヌマベの特徴です。
沼は周辺の田んぼや斜面林・台地の上と一体で、大きな生態系を支えてきました。その中でもヌマベのエコトーンは、多様な植生環境をつくりだし、多様な生きものすみかとなり、水の生きものと陸の生きものが交差する、環境の中で最も大事な場所です。
人にとってヌマベは、様々なアクティビティの舞台になると同時に、環境のなかに生きる人間の役割を再認識させてくれる学びの場でもあります。

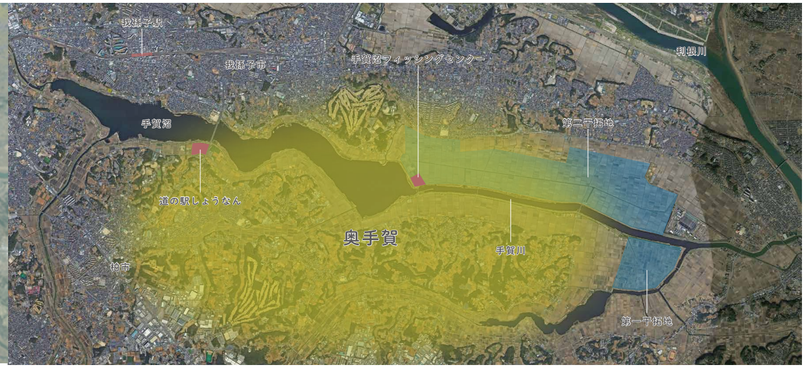
「奥手賀」

本来の手賀沼の中心
湿地環境の中央
歴史文化的圏域の中央

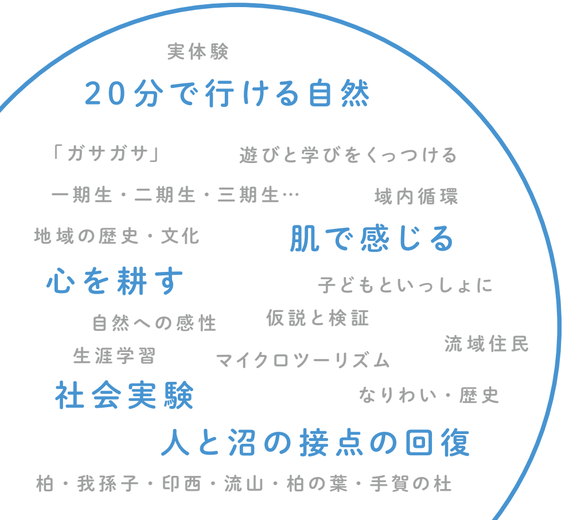
「奥手賀」エリアは、千葉県北西部にある利根川水系の天然湖沼“手賀沼”の東側のエリアを指します。
奥手賀エリアには、柏・我孫子・印西という近郊都市の住宅地からわずか 20 分ほどでアクセスできる身近な「本物の自然」があります。都心からも訪れやすく、ほどよく通える「田舎」でもあります。
奥手賀エリアは、戦後に手賀沼が大規模干拓されるまで、大きな手賀沼の中心に位置していました。すなわち、本来の手賀沼が有していた湿地環境の中央かつ、歴史文化的な圏域の中央でもあります。奥手賀は、現在の手賀沼より広域な、手賀沼の本来の環境・文化の再発見に直結します。



水辺の拠点を含む「ヌマベ」の断面構成



ジモトが遊び・学ぶ
ヌマベの学校



都市生活者に自然環境の実体験を

「本当にヌマにハマる」ような実体験を大切に
脱「自然欠乏症候群」に貢献する場所に
「身近な自然がある週末ライフスタイル」を発信する

親子・三世代で「小さな冒険」を

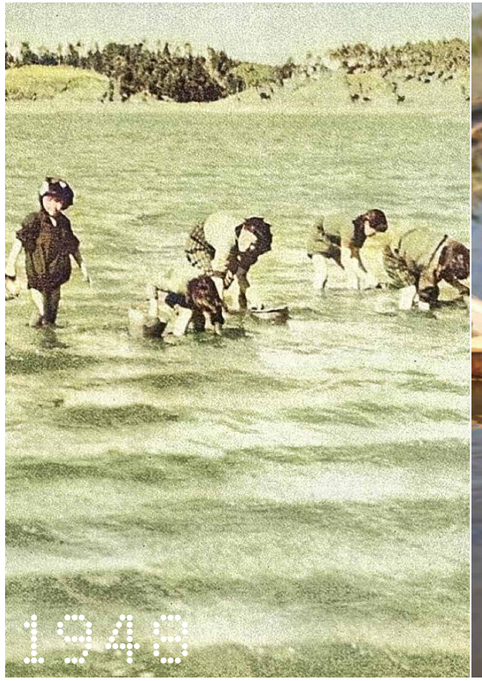
親子層や三世代で参加できる機会をたくさん設ける
歴史やなりわいや土地の知恵に、楽しみながら触れる
次世代の「手賀沼っ子」を育てる

ジモトの環境にかかわる入口に

手賀沼に関わり参加するきっかけを提供し裾野を広げる
日常の遊びのなかから学びをつくっていく
「自分たちの環境を自分たちでよりよくする」を当たり前に

試行錯誤して進める環境づくり

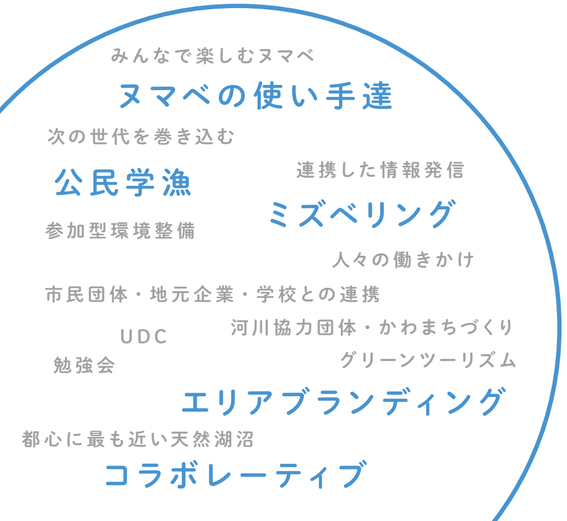
ヌマベの価値をさぐる社会実験を続けていく
トライ＆エラーをくりかえしながら環境をつくる
データやアンケートをとって次に生かす



「タマッケ採り」の様子

「ヌマハマリ」の様子

コラボレーションをはぐくむ



公民学漁で手を取り合う

土地管理境界を越えて水辺空間をマネジメントする

漁協と連携するからこそできる取り組みに挑戦する

周辺の小中高大との積極的に連携する

ヌマベの使い手達を応援する

ヌマベで活動する人たちとボトムアップで進める

アクティビティをシェアしていく

新しいヌマベの使い手を発掘する

ヌマベとヌマベをつないでいく

流域全体での魅力づくりに貢献する

流域圏の多様な活動を知り、認め合う

「沼」同士でつながり、「沼」に取り組む仲間を増やす

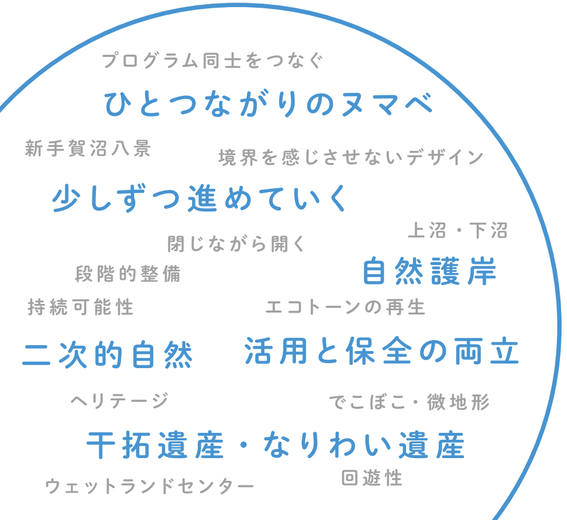
新しいヌマベの価値を探究する

民間企業やアカデミックと連携した取り組み

SDGs、循環型社会の環境づくりに連携して取り組む

オープンマインドで新しい主体の参加を受け入れる

"わんど"に学ぶ空間づくりの作法



沼と陸の接点を最も大切にする

自然環境の急所とも呼ぶべき場所としてヌマベを考える

エコトーンを丁寧に紡ぎ、回復する

コンクリート護岸から自然護岸へ

境界をあいまいにしていく

フェンスや柵、車道などで分断されないフィールドづくり

敷地境界や所有管理境界を感じさせないフィールドづくり

手賀沼をより近くに感じられるフィールドづくり

今あるものを尊重して少しずつ

漁協施設を尊重しながらひらいていく

なりわい遺産や干拓遺産を尊重する

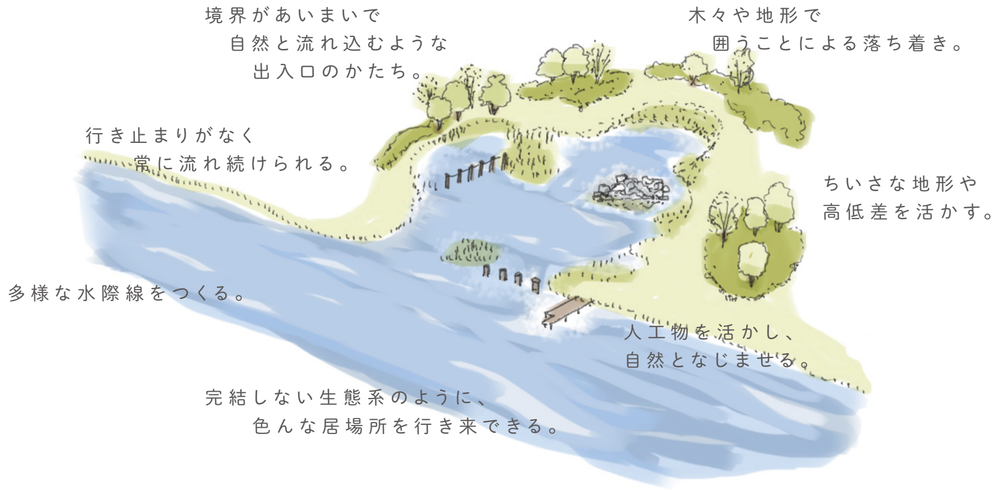
段階を踏みながら、少しずつ整えていく

生きものの道を回復する

沼〜田んぼ〜谷津〜斜面林までを横断的に考える

グレーインフラをグリーンインフラに戻していく

水のネットワークを見える化する



"わんど"に学ぶ７つのデザインの作法

「わんど」は川の本流とつながった小さな入り江状の場所・地形。個性豊かな水際環境と、所々に配された人工物がうまく連なりあうことで、様々な生きものが集い、休息し、成長する場です。私たちは手賀沼の水際＝ヌマベを「わんど」に見立てながら、人にも生きものにも心地よい冒険の場を、つくりだしていきたいと考えています。

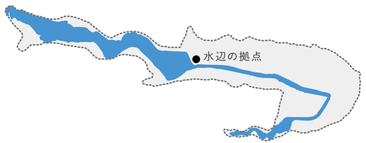
フォーカス
「水辺の拠点」は
なぜ大切か

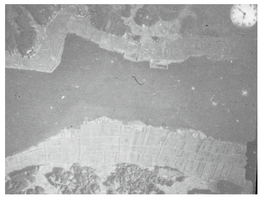
手賀沼東端にある「水辺の拠点」は、柏市・手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会・東京大学都市デザイン研究室・手賀沼漁業協同組合の公民学漁が連携して、2016 年度から整備を進めてきたフィールドであり、漁協が運営する総合レジャー施設「手賀沼フィッシングセンター」の一部を構成しています。
「水辺の拠点」の土地が、手賀沼の歴史の中でどのような重要性を持ち、これからの時代にどのような意味を持つ場所なのかを再確認し、今後私たちがどのようなテーマを持って「水辺の拠点」に取り組んでいくべきかを考察します。

FOCUS 1　「水辺の拠点」が大切な理由

人間が干拓で生み出した土地の最前線

手賀沼は 2000 年度まで、27 年連続日本一汚い湖沼でした。主因は干拓による生態系の崩れと、自然本来の浄化機能の喪失でした。水辺の拠点は干拓地の最前線。その環境に正しく関わり生態系を取り戻すことは 21 世紀の責任であり、やがて漁業の回復にもつながっていくことです。





干拓前

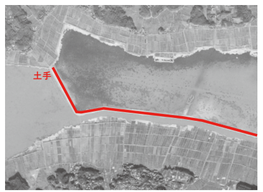
周辺の集落は利根川の洪水による水害に悩まされた。また人々は舟運によって移動していた。

撮影 1944 年

土地の転用

漁協は北側の土地（点線部）を、収益を目的に最初は田んぼとして利用。後に県が買収し、グラウンドとなった。

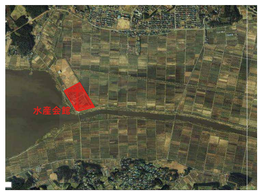
撮影 1975 年



干拓初期

1945 年、食糧増産を目的に、農林省直轄で干拓工事が始まった。工事は帰還兵によって行われた。
第 2 干拓工事から沼の水質悪化が始まる。

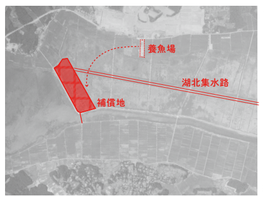
撮影 1962 年



水産会館の建設

1978 年に水産会館が完成した。
建物の土地は 1938 年の洪水時の水位（Y.P.5.5m）まで嵩上げされている。

撮影 1979 年



漁協施設の移転

漁協は失われた漁業権への補償として、土手の最前線に位置する 10ha の土地を得て、そこに漁協施設を移した。手賀沼調整水門は 1967 年に竣工した。

撮影 1968 年

浄化施設の整備

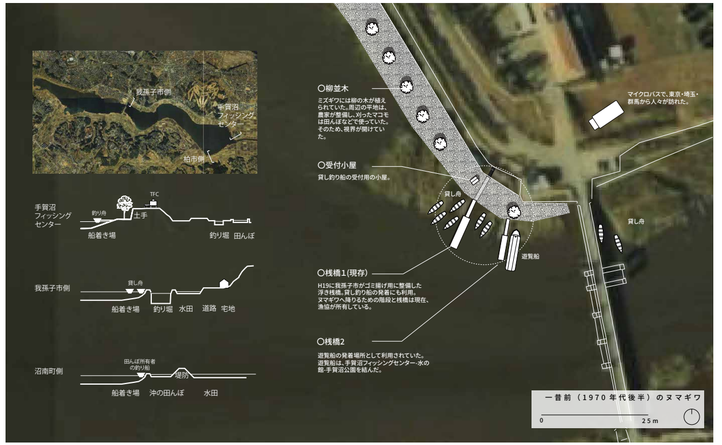
水質改善を目的に整備された北千葉導水路は 2000年に完成。敷地の一部が国交省に移管され手賀川浄化施設が建設される。

撮影 2007 年

人がつくりだし、
漁業・なりわいを衰退させ、
放置してきたヌマベ

時代の要求に応えた「冒険」の場
水質 27 年連続ワースト 1
二次的自然

人間が責任を持って関わりながらヌマベ環境を再生すべき場所です



多くの遊休施設・遊休スペース

老朽化した施設
閉鎖的なフィールド
ストック活用・リノベーション

2016 年の手賀沼フィッシングセンター

FOCUS 2　「水辺の拠点」が大切な理由

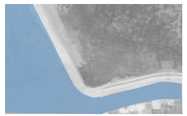
沼・川・田んぼ・水路に囲まれたレジャー施設

「水辺の拠点」は東西南北、さまざまな水辺に面しています。西は手賀沼、北は水路、東は田んぼ、南は手賀川です。さらに、施設内にも多くの生簀、釣り堀、水路がめぐっています。この多様な親水性が、他の場所ではできない複合的な水辺体験を生み出してくれます。

多様な親水性

様々な水際の環境
沼に出やすい、川に出やすい

なりわいが形づくった独特の親水空間



干拓事業により一直線の堤防が造られ、水と陸が明確に分けられた 1950 年代。

なりわいの変化に伴う生け簀や水田が整備され、水面の多い場所であった 1960 年頃。

レジャーエリアが本格化し、水産会館や貸舟用の桟橋もできた 1980 年頃。

多数の生け簀が埋められ、コンクリートの浄化施設ができ、水際線も変化した 2000 年代。

いろんな創造・体験・滞在を同時に楽しむ可能性に溢れています

環境学習環境の宝庫
レジャー機能がある
門戸がひらかれている
子どもが遊びやすい
子どもと過ごしやすい
風景の魅力、夕陽
時間消費

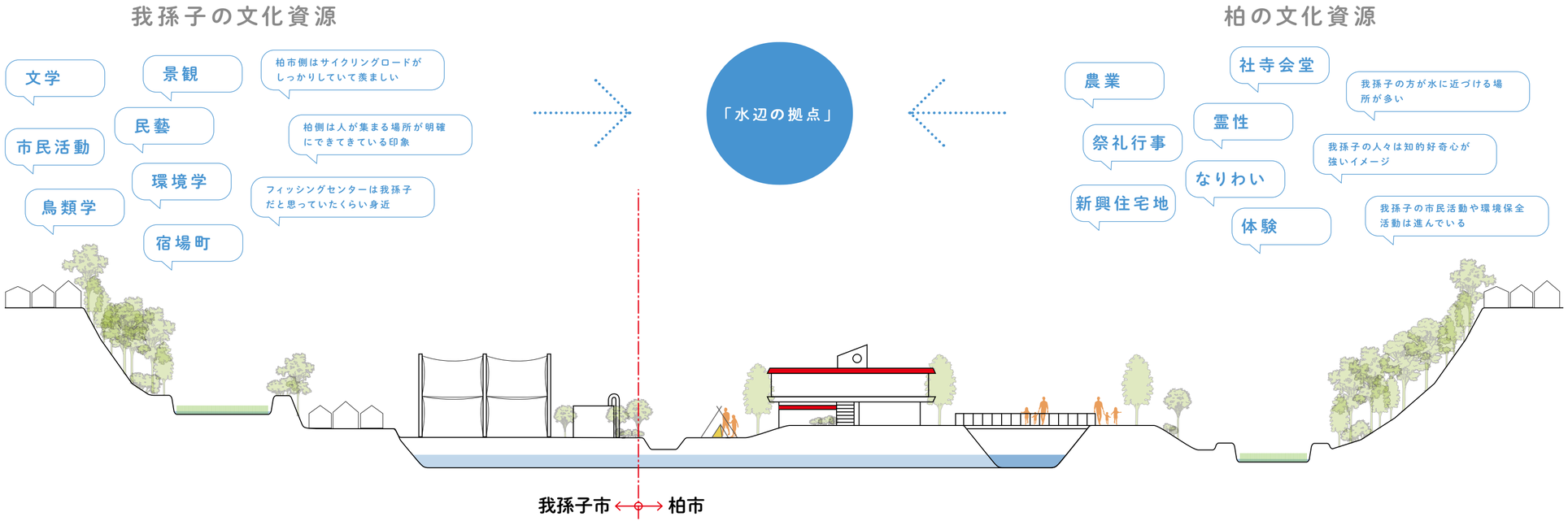
多様なオープンスペースが存在する手賀沼フィッシングセンターは、釣りやキャンプ、カフェといった気軽に訪れられる場所を中心に、周辺に様々な自然・学びのきっかけがあるため、自分が関わりやすいところから手賀沼の輪に入ることができます。交流人口の裾野をより広げやすい場所であると言えます。

FOCUS 3　「水辺の拠点」が大切な理由

我孫子市と柏市にまたがる場所

我孫子市と柏市（旧沼南町）は、手賀沼を挟んで類似の地形を有しますが、その文化資源の様相は対比的です。市境に位置する水辺の拠点は、干拓後、橋が架かって両者の往来が増える契機となった歴史を持つ土地です。私たちは、対岸の文化に出会える場所としての可能性を育みます。

湖北的なる文化と沼南的なる文化が交わる場としてのポテンシャルを持っています



FOCUS 4　「水辺の拠点」が大切な理由

様々な行政計画の結節点

柏市・我孫子市の市境にあり、手賀川を通じて印西市にもつながる「水辺の拠点」には、これまで様々な行政計画が策定されてきました。環境の保全を基本としながらも、交流・農業・学習・親水など多様な機能が期待されています。

手賀沼・手賀川推進協議会

手賀沼・手賀川を地域共通の資源として活用し、地域の魅力向上を目指した総合的な戦略を策定し、事業の実現に向けた今後の取り組みの方向性を示した。

つながるウォーターサイド TEGA（H27）
手賀沼・手賀川活用推進のためのアクションプラン（H29）

柏市

自然が豊かで、地域資源が多く分布している手賀沼周辺地域において、農業や観光・レクリエーションの振興による環境共生・交流の地域づくりを目指す。

手賀沼アグリビジネスパーク事業実現に向けた提案（H22）
手賀沼アグリビジネスパーク事業戦略プラン（H28-R1）

我孫子市

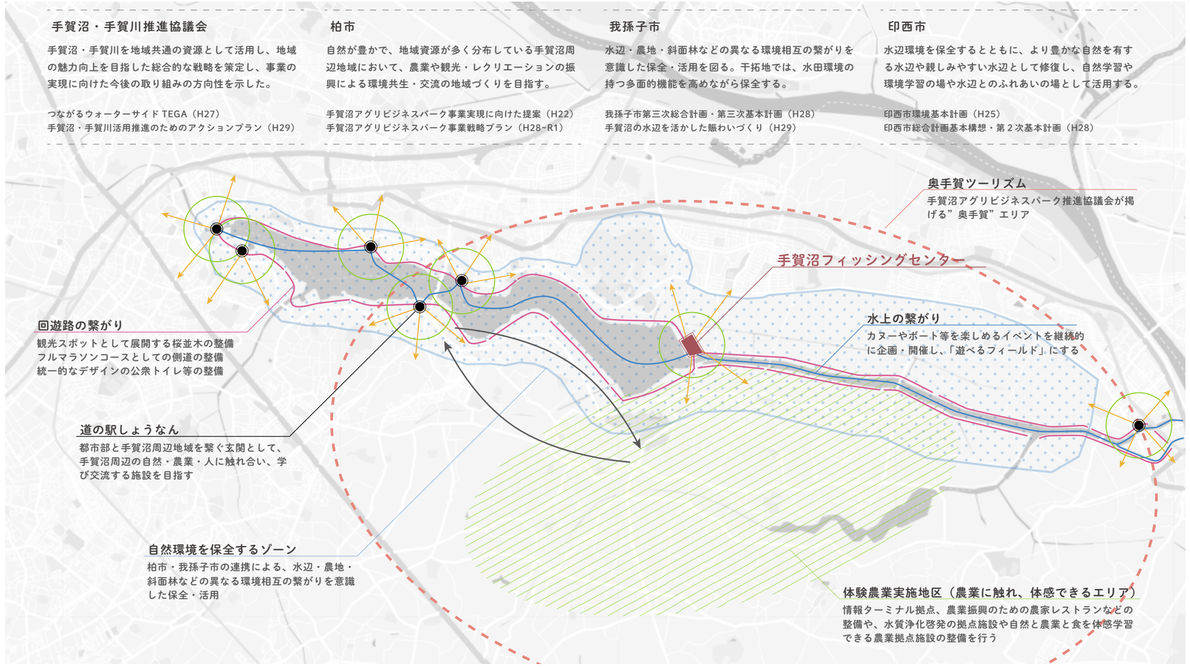
水辺・農地・斜面林などの異なる環境相互の繋がりを意識した保全・活用を図る。千拓地では、水田環境の持つ多面的機能を高めながら保全する。

我孫子市第三次総合計画・第三次基本計画（H28）
手賀沼の水辺を活かした賑わいづくり（H29）

印西市

水辺環境を保全するとともに、より豊かな自然を有する水辺や親しみやすい水辺として修復し、自然学習や環境学習の場や水辺とのふれあいの場として活用する。

印西市環境基本計画（H25）
印西市総合計画基本構想・第２次基本計画（H28）

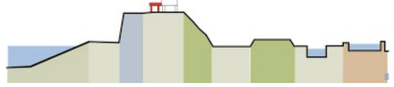


ヌマベの再生に公民学漁が連携して取り組みやすい土壌があります

しがらみがない場所
多数のステークホルダー
ここでできたら他でも
アカデミックのつながりも

手賀沼・手賀川活用推進協議会
「手賀沼・手賀川活用推進のためのアクションプラン」（2017.9）

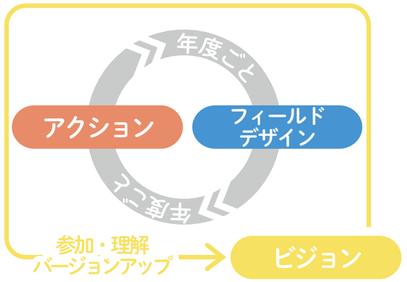
これまで水辺の拠点に参画したプレイヤーの一例



（様々に分断された所有管理）

リボーン
「水辺の拠点」で芽生えていること

「水辺の拠点」の整備は 2016 年頃から始まりました。フィールドデザインは、柏市・手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会による構想と、東京大学都市デザイン研究室によるコンセプト提案に沿って進められ、手賀沼漁業協同組合の協力のもと、オープンスペースや観察池、駐車場などが再整備されました。
その過程では様々な社会実験やイベントなどソフトの取り組みを公民学漁連携で展開し、その結果を受けてまた次の方向性づくりを行ってきました。結果ここには、主体性と創造性を持ったヌマベ・奥手賀のプレーヤーたちが、続々と集まってきています。

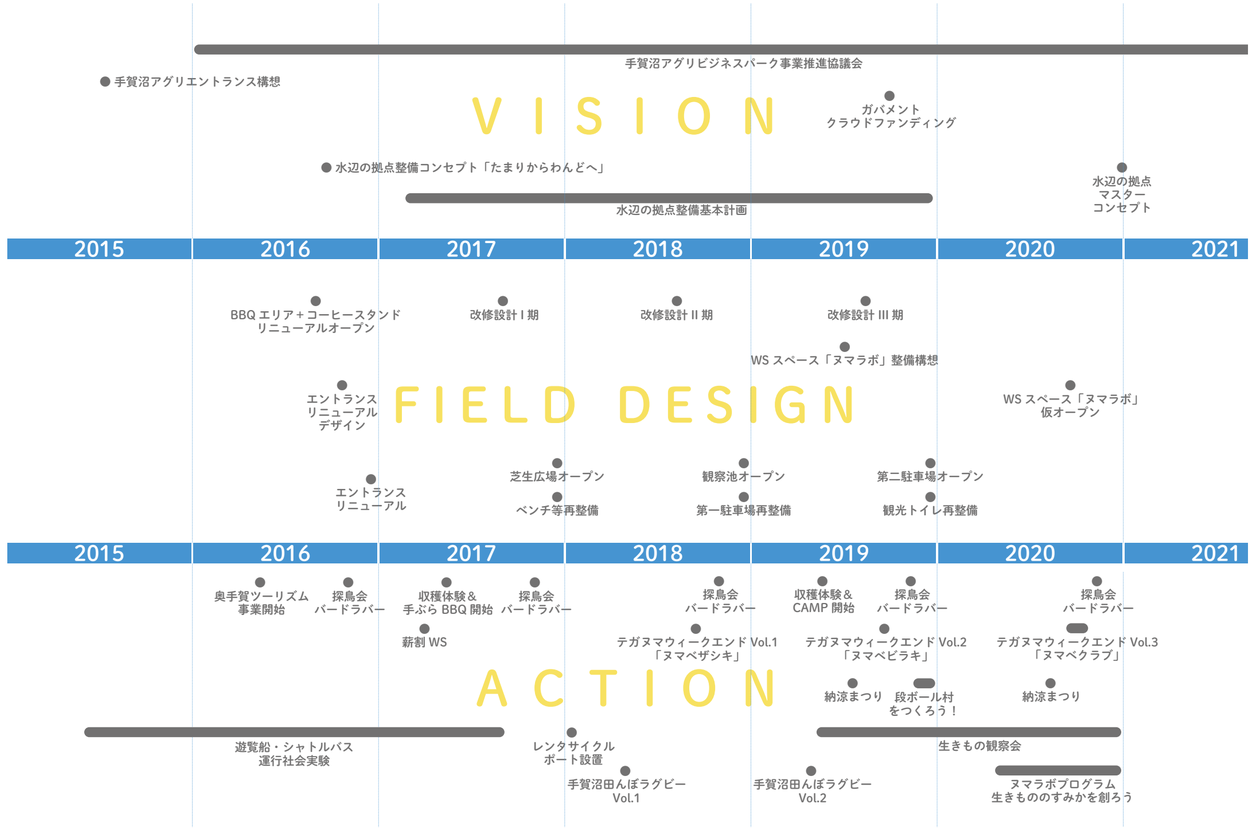


ACTION

FIELD DESIGN

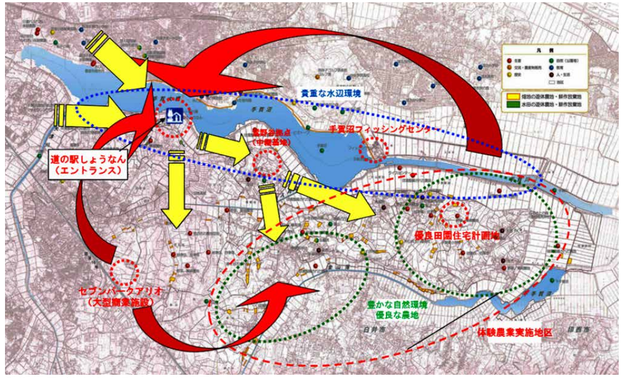
VISION

フィールドづくりとアクションを往復し、
ビジョンを更新し続けてきた 5 年間



2016— VISION

手賀地域全体の活性化を見据えた上で、手賀沼フィッシングセンターを「水辺の拠点」と位置付け、「公民学漁」連携で再生計画を立ててきました



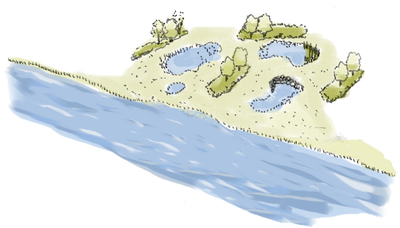
手賀沼アグリビジネスパーク構想図

3 つの拠点の考え方

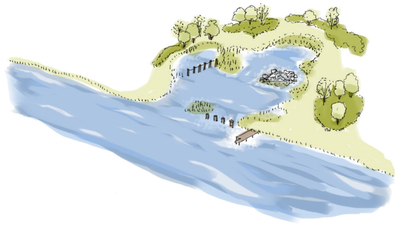
道の駅しょうなん

鷲野谷拠点

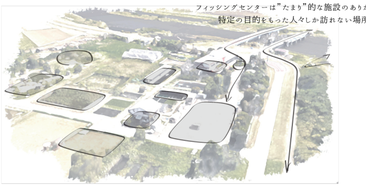
手賀沼フィッシングセンター

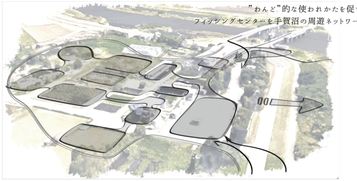

「たまり」とは…

たまり（溜まり）は、川の本流と繋がっておらず、降雨や洪水などによってできる取り残された水域で比較的小規模のものを言う。
流れがある本川に比べ、魚や昆虫など様々な生物が多く生息している。
たまりは、わんどと異なり水の入れ替わりがほとんどないため、ユニークな生息環境として希少種などの生育環境として機能する。冬の減水期には干上がってしまったり、人為的な環境変化による影響を受けやすいなど不安定で、近年は減少傾向にある。


「わんど」とは…

わんど（湾処）は、川の本流と広く繋がっていて、河川構造物などに囲まれた入り江のようになっている水域および地形のことである。
流れがある本川に比べ、魚や昆虫など様々な生物が多く生息している。その分布は“水際線の複雑さ”が連続することによる、流速環境の多様さを表現している考えられる。
わんどは、魚の産卵や成育の場であり、稚魚の生息場や魚類の休息場としての機能を持つものとして、人工的につくられることも多くなった。





「たまり」と「わんど」のコンセプトイメージ

2005—
手賀沼アグリビジネスパーク構想

2010 年度「手賀沼アグリビジネスパーク事業実現に向けた提案」
2015 年度より柏市しょうなん地区農活性化協議会がグリーンツーリズム企画を実施。また「手賀沼アグリエントランス構想」により、道の駅しょうなんを中核として「農業や観光・レクリエーションの振興による環境共生・交流の地域づくり」へ。
2016 年度よりアグリビジネスパーク事業推進協議会発足、事業戦略プランの策定と実行へ。

2016—
手賀沼フィッシングセンターを第 2 の拠点に

（1）基地機能
施設単体で楽しめるだけでなく、周辺エリアへの移動基地として利用できる機能
（2）地域連携機能
地域経済の振興、交流人口の増大を図る機能
（3）情報発信機能
多様な周辺情報を他の拠点と連携し、利用者に周辺の魅力を効果的に案内する機能

2017—
水辺の拠点整備コンセプト「たまりからわんどへ」

“たまり”的な様相から

・車での来訪を前提とした配置
・特定の目的で人々がやってくる
・手賀沼に背を向けた建物構成
・用途ごとに区切られた状態
・プログラム同士が関連できていない
・周辺とは異なる自己完結した植栽計画

“わんど”的な様相へ

・様々な交通手段で訪れることができる
・訪れた人が色んな興味を持つことができる
・手賀沼に開かれた施設構成
・用途ごとにしきりがなく
・連続的に活動できる
・周辺と連続性のある植栽計画

2017– FIELD DESIGN

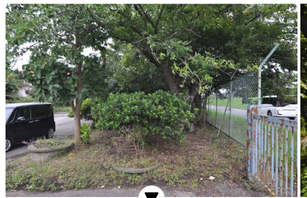
柏市がフィッシングセンターの一部を借地し、ジモトみんなで楽しむ、豊かなあいまいさと柔軟さを持つパブリックスペースがデザインされました

手賀沼にひらく

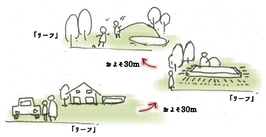
目指したのは、手賀沼に対してひらかれたフィールド。環境そのものがあそび場になるランドスケープ。
その結果、中と外があいまいで自然と立ち入ってしまいたくなる敷地の境界や、柵がなくとも親子で安心して遊べる生きもの観察池ができました。

柔軟な位置付け

公園でもなく民地でもないフィールド。柏市がジモトに向けて開放した、自由度の高い特別なパブリックスペース。漁協の施設や新しいワークショップスペース「ヌマラボ」も隣接していることで、様々な使い方を市民が想像でき、持ち込めるきっかけをつくりました。



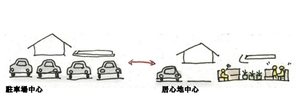
活動をみせる、あいまいな敷地境界



環境そのものが遊び場、小さな冒険

柵のない、ハマれる観察池

使いこなしを歓迎する、柔軟なルール

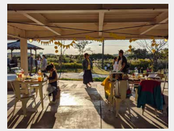


2018– ACTION

水辺の拠点をきっかけに、社会実験・イベント・様々な体験プログラム開催を通じて、

フィッシングセンター「納涼まつり」
2019.8 & 2020.8　漁協+ EDGE HAUS 主催

「ヌマラボ」
2020.9 開始のワークショップ



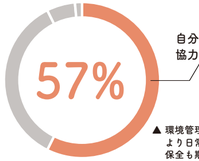
「生きもの観察会」
2019.7 以降、ほぼ毎月開催

社会実験「テガヌマウィークエンド」
2018.11 に「VOL.1 ヌマベザシキ」、2019.11 に「VOL.2 ヌマベビラキ」

ヌマベに活動の輪が広がっています

ヌマベを求める人々の声
社会実験「テガヌマウィークエンド」VOL.2 アンケート結果より

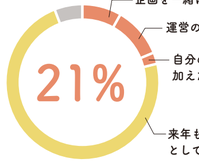
ヌマベの環境管理への問題意識



自分たちが整備に協力してみたい

▲ 環境管理への参画の声が多く、より日常的利用や参加型の環境保全も期待できる。

ヌマベリング企画・運営への参加意向



企画を一緒に考えたい
運営の手伝いをしたい
自分の取り組みを加えたい
来年も来場者として参加したい 73%

▲ 次回の参加を希望する声は 94% にも及んだ。その中で、少額含ながら企画運営に参加する層も発見できた。伺った連絡先から、連携に向けて既に動き始めている。

沼も少しずつきれいになり、こういった昔では考えられないイベントなどが増えてきて、とてもうれしく思います。

昨年都内から越してきたのですが、こうして自然に触れ合えることをとても嬉しく、ありがたく思っております。

子供の教育にも最適と感じました。

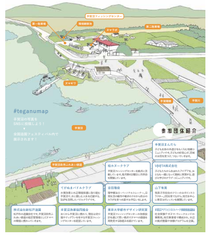
SUP のために、もっと日常的に桟橋を使いたいので協力してほしいです！

もっと船に乗りたい。我孫子も混ぜてほしい。準備から参加したら面白そう。

成果・課題

- ◎ 実施に当たって 多様な主体との関係 を構築できた
- ◎ 今後も活用可能な ファニチャー を制作できた
- ◎ ヌマベに、生き物観察、子供との遊び / 学び という価値が特に求められていることがわかった
- ◎ もっと日常的に使いたいというコンタクトがあった
- ◎ 次のプレイヤー候補を発掘することができた
- ▲ フィッシングセンターと沼畔の間を遮る道路の安全性確保 を求める声が多数寄せられた。

「ヌマベクラブ」に向けた社会実験
2020.10-11「テガヌマウィークエンド VOL.3 ヌマベクラブ」



手賀沼まんだら

柏カヌークラブ

VIVITA

てがぬまパドルクラブ

ヨガインストラクター

新松戸造園

手賀沼漁協

協議会・東大

「ヌマベクラブ」立ち上げの機運が上昇

「奥手賀エリア」で芽生えていること

アウトドア施設を中心に数々の「こころを耕す」場所が再生・誕生しています

Kingfisher Garden　道の駅しょうなん　RECAMP しょうなん　WOODMAN's Village
農菜土　ひまわりクラブ　田んぼラグビー　旧手賀教会堂　柏カヌークラブ　etc...

「ヌマベ」で芽生えていること

「ヌマベ」に新しい感性や、新しいチームで関わる主体が増えています

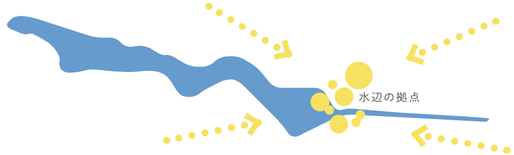
手賀沼まんだら　NPO 手賀沼トラスト　景観総合研究所　Abiko A-life　てがぬまパドルクラブ
VIVITA　アルバトロスヨットクラブ　奥手賀カヌーツーリズム　柏市みどりの基金　etc...

3 COLLABORATIONs

「水辺の拠点」から
はじまる3つの
コラボレーション

NUMABE CLUB

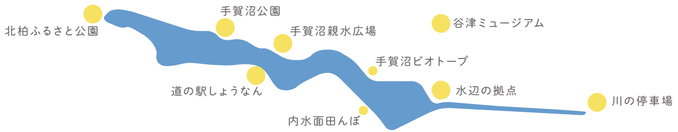
ヌマベの使い手たちがコラボレーションする
「ヌマベクラブ」を立ち上げて
水辺の拠点を育てていこう



SECTION 4
みんなで楽しむ
ヌマベを目指して

NUMABERING

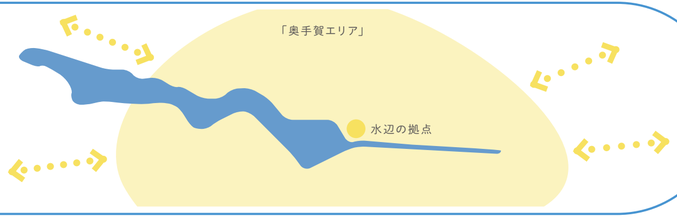
ヌマベに沿ったコラボレーション
「ヌマベリング」を進めて
人と沼が接する場を広げていこう



SECTION 5
人と沼が接する場を
広げていく

OKUTEGA BRANDING

体験をあつめた「奥手賀エリア」として発信し
「こころを耕す」場を求める人たちとの
コラボレーションを進めよう



SECTION 6
「水辺の拠点」から
「奥手賀」へ

これまで水辺の拠点で取り組んできたことの反響と、周辺ではじまっている様々な取り組みを踏まえて、大きく3つのコラボレーションをすすめていきたいと考えています。

ヌマベクラブ
みんなで楽しむ
ヌマベを目指して

「ヌマベの使い手たち」と呼んでいる、ヌマベをフィールドに活動している人々が集まって、いよいよヌマベクラブが立ち上がります。使い手たちで集まって、ヌマベをみんなで楽しみ、分かち合うところから始めていきます。ヌマベクラブとともに場を使いこなしながら、公民学漁の連携の輪をひろげて、水辺の拠点を育てていきます。将来的にはヌマベクラブがフィールドのマネジメントにも携わっていくことで、ヌマベをより持続的で美しい環境として守っていくことができます。

ヌマベについてのいろいろなニーズや疑問

ヌマベクラブを発足します

ヌマベクラブ

ヌマベの使い手たちが集うプラットフォーム

スケジュール調整
開催情報共有

HP などでまとめて
情報発信・宣伝
◀アグリ協議会のサポート

一堂に介しての
ヌマベイベントの実施

占用申請資料などの
フォーマット化
◀アグリ協議会のサポート

各種要望出し
ルールづくり
◀土地管理者との議論

自主的な
環境整備への参加

桟橋や備品、
クラブハウスの利用
◀漁協のサポート

柏市水辺の拠点の
利用＋整備
◀柏市農政課のサポート

ヌマベを美しく保ち、楽しく遊び、深く学べるみんなの居場所にしていきたい。
みんなで使うヌマベを目指して、ひらかれたチームづくりにしたいと考えています。

参加条件（案）

- 定期的に活動している団体または個人であること
- 年１回以上、オープンなプログラムを開催すること
- Facebook グループなどを利用した連絡網への参加
- クラブで決定した活動ルールを守ること
- 安全に関する資格を持っているか、安全に関する講習を受けること
- 手賀沼の美化と魅力発信に資する活動であること
- クラブの活動エリアで収益が出た場合、環境整備のために一部を還元すること

ヌマベクラブの成長イメージ

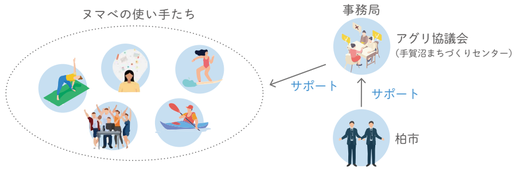
TEAM

SPACE

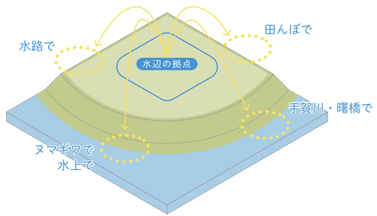
TIME

STEP1
まずは、あそぶ！

ヌマベの使い手たちで集まって、楽しむ



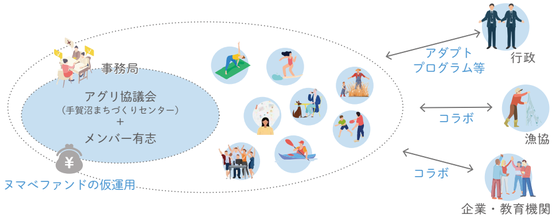
いろんな場所で遊んでみる



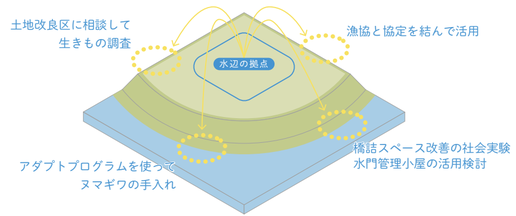
それぞれのペースで楽しむ

STEP2
だんだん、かかわる！

チームになって、行政・企業・漁協と連携していく



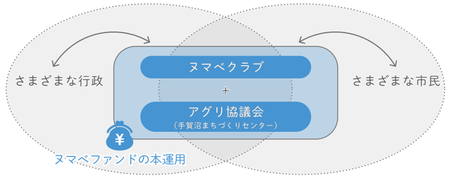
日常的に使いこなしてみる



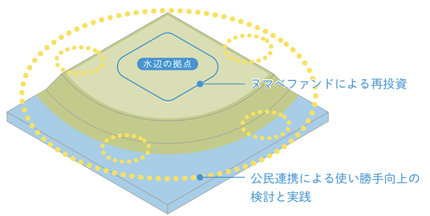
まとまった期間も楽しめるようになる

STEP3
いよいよ、うごかす！

行政と市民の間に立って、ヌマベをより良くする！

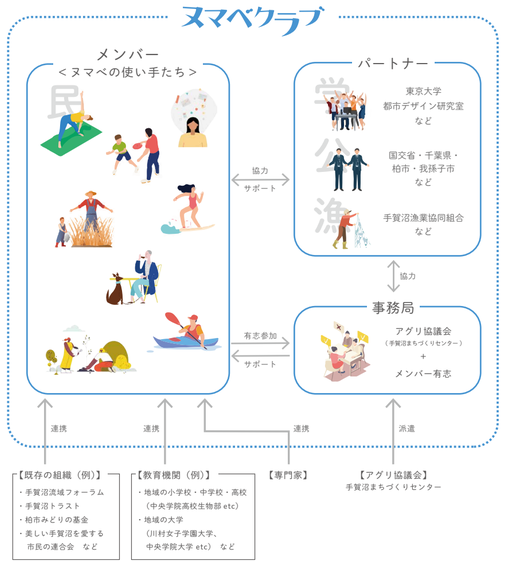


みんなでヌマベのフィールドをより良くする



年間を通じて楽しみ方を企画する

公民学漁を交えた充実のチーム体制に



ヌマベクラブの６つの心得

ヌマベを舞台に、楽しく安全に活動していく。そのために、ヌマベクラブは「６つの心得」をもって活動していきます。みんなで学び合いながら、手を取り合いながら、手賀沼とともに活動を育んでいきます。

楽しみ方をシェアしよう

お互いの活動を共有し、地域の皆さんに活動を知ってもらおう！パンフレットや HP、SNS 等で活動を紹介・発信していきます。

メンバー同士で活動を伝え合おう

活動を多くの人に届けよう

手賀沼を学び合おう

手賀沼やヌマベのことをもっと知ろう！手賀沼の漁業を学ぶ機会や、歴史や文化・環境を学ぶ勉強会等を開催していきます。

歴史・文化・環境の勉強会を開こう

事例見学ツアーに行こう

学びや資格取得の機会を設けよう

活動を手軽にしよう

みんなが手軽に活動できる環境や仕組みを整えよう！利用申請手続きや備品の管理等、円滑な活動のためのルール作りをします。

共通の活動ルールを運用しよう

メンバーが優先利用できるクラブスペースを用意しよう

ヌマベ利用シートで手続きを一括にしよう

魅力を発見しよう

ヌマベの新たな魅力や新しい楽しみ方を見つけよう！団体同士で積極的にコラボし、色々な視点からイベントを開催します。

ヌマラボプログラム：
公共性の高いチャレンジを応援しよう

テガヌマウィークエンド：
クラブメンバーが一緒になって社会実験に取り組もう

環境を整えよう

自分たちのフィールドは自分たちできれいにしよう！手賀沼やヌマベのゴミ拾い・草刈りを定期的に実施していきます。

観察池の創造的な環境マネジメントを実践しよう

手賀沼全体の美化活動に参加・協力しよう

水辺の拠点に還元する仕組みを整えよう

未来を描こう

手賀沼の将来像を語り合い、描いていこう！手賀沼がこんな風になったらいいなという夢を、みんなで実現していきます。

４つのステップで未来を描き続けよう

みんなでヌマベクラブの活動サイクルを回そう

みんなで楽しむヌマベを目指して ①

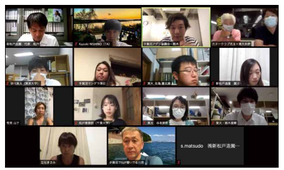
楽しみ方をシェアしよう

パンフレットやHP、SNS等で活動を紹介・発信して、地域の皆さんに活動を知ってもらう機会を増やすことから始めましょう。お互いの活動を共有し、団体同士でコラボしたプログラムを行い、よりヌマベを楽しみましょう。

メンバー同士で活動を伝え合おう

クラブメンバー間の情報交換の場づくり

お互いの活動を情報共有することで、協力や連携の可能性が広がります。オンラインや対面での交流会を開き、メンバーの情報交換ができる場を積極的に設けます。



事例｜草津川跡地プロジェクト・くさねっこ　滋賀県草津市

草津川跡地公園の活用に向けて、地縁団体や市民活動団体等が参加する公園管理運営会議で相互の連携や合意形成が行われています。また全体の運営に関わりたいメンバーからなる市民活動部会で、情報発信の方法や活動ルール、メンバー間の交流や組織のあり方などを検討し、活動全体を支えています。

http://kusanekko.org/wp-content/uploads/2020/07/kusanekko_book_a5.pdf

コラボレーションによるプログラムの開催

情報交換により、団体同士で連携したプログラムを提供できます。すでにテガヌマウィークエンドvol.3「ヌマベクラブ」などを通じて、５つのコラボレーションが生まれました。

おやこYOGA
手賀沼まんだら × 山下有美さん

こどもが気軽に参加できる親子YOGAプログラムを共同で開催しました。

生きものとお話ししよう ヌマベver.
手賀沼まんだら × 東大

水系を追って、我孫子の谷津ミュージアムの生きものと観察池の生きものとを比較しました。

生きものとお話ししよう ヌマベver.
手賀沼まんだら × 漁協 × 手水研 × 東大

手賀沼で取れた生きものと観察池で取れた生きものを比べ、生息生物の共通点と違いを考えました。

箱庭に秋の手賀沼を飾ろう
VIVITA× 新松戸造園

参加者が採った野草の名前を、緑道の指定管理者である新松戸造園さんが教えてくれました。

ヌマベクリーン
てがぬまパドルクラブ × 新松戸造園 × 手賀沼まんだら

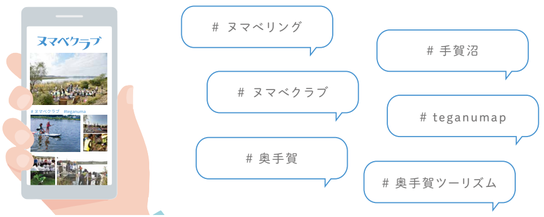
陸側からのゴミ拾いと同時に、サップに乗って沼側からもゴミ拾いを行う清掃活動を行いました。

活動を多くの人に届けよう

ヌマベクラブの活動を紹介する冊子・HPづくり

『#』をそろえて、みんなで情報発信

ヌマベクラブみんなで共通のハッシュタグ『#』を用いて、SNSで情報発信します。

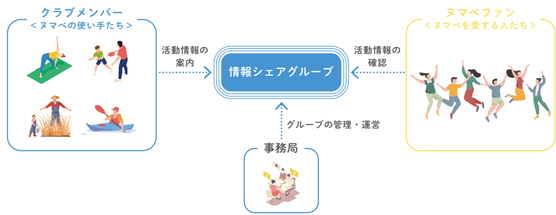


誰でも参加できるオープンプログラムの開催

少なくとも年に１回、一般の参加者が参加できる『オープンプログラム』を設けましょう。冊子やホームページでアピールして、ヌマベに関わる人たちを増やしていきます。

ヌマベを愛する人たちで繋がるヌマベファン

ヌマベを愛する人たち「ヌマベファン」とともに、メーリングリストやオープンSNSグループで集まって、ヌマベの情報を共有します。



みんなで楽しむヌマベを目指して ②

手賀沼を学び合おう

ヌマベクラブのメンバーで、手賀沼やヌマベにもっと詳しくなっていきましょう。手賀沼の漁業を学ぶ機会や、ヌマベの歴史・文化・環境を学ぶ勉強会、体験プログラムの企画・運営について学ぶ講習会を開催していきましょう。

歴史・文化・環境の勉強会を開こう

漁協の方々とのコラボレーション

漁協とコラボすることで可能になる４つの学びのポイント

- 漁法や潮の読み方など、生業や自然との関わり方を学べる
- ヌマベの土地の履歴を学べる
- 使っていない＂いけす＂を利用して実験的に学べる
- 漁業権を有する漁師の方々とともに、さらに生きものを学べる

例｜漁協とコラボした企画のイメージ

- 船で手賀沼の漁業を巡るツアーをおこなう
- 使っていない＂いけす＂を借りて、水草を育ててみる

漁協の方々による漁業に関するレクチャーの様子

歴史・文化・環境の専門家を招いた勉強会

手賀沼の環境や歴史に詳しい方をアドバイザー・講師として招いた勉強会を開きます。クラブメンバーが「奥手賀の案内人」「ヌマベの案内人」になり、それぞれの活動に深みを出すことができます。

子どもとともに自然の関わり方を学ぶ講座

子どもたちと一緒に手賀沼の自然を学び、自然との関わり方を身につけます。子どもたちとともに次世代の手賀沼・ヌマベの担い手になります。

手賀沼の歴史や生きものを学ぶレクチャーの様子

事例見学ツアーに行こう

ヌマベクラブの参考になる取り組みや活動、チームづくりを行っている事例を見学して学び、手賀沼に活かしていきます。

例｜見学する事例のイメージ

蕪栗沼
宮城県
https://kwcp.simdif.com/

鳥屋野潟
新潟県
https://toyanogata.jp/

豊岡市湿地帯
兵庫県
https://www.city.toyooka.lg.jp/konotori/yaseifukki/index.html

学びや資格取得の機会を設けよう

「こんなことが学べたらいいのに」「こんな資格を取ることができたら活動の幅が広がるのに」というクラブメンバーの声に耳を傾け、学びの場のセッティングや資格の取得サポートなどを積極的に行っていきます。

例｜学びの場のイメージ

テガヌマイスター養成講座
主催：手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会

体験プログラムの企画・運営者を育成する講習会で、講習会を受講することで「NEALリーダー（自然体験活動保護指導者）」や「U.S.F.A. 救急蘇生法」といった認定資格の取得が可能になります。

https://www.teganuma-agri.com/lecture/

みんなで楽しむヌマベを目指して ③

活動を手軽にしよう

ヌマベクラブのメンバーがヌマベで手軽に活動できる環境や仕組みを整えましょう。手軽に活動するために必要となる機能を持つクラブスペースの用意や、円滑に活動するためのルール作り、手続きを一括でカンタンにしたヌマベ利用シートの運用を行いましょう。

共通の活動ルールを運用しよう

2020 年度にはヌマベクラブで共通の活動ルールを作って、実際に運用してみました。

1. 水辺の危険の回避
2. 駐車場の利用や車の誘導
3. 悪天候時の開催の判断基準
4. ゴミの処分
5. COVID-19 の対策

共通の活動ルールがあることで、
クラブスペースの利用や
ヌマベ利用シートによる手続きを
簡単にすることができます。

これから考えたい活動ルール

クラブスペースの使い方

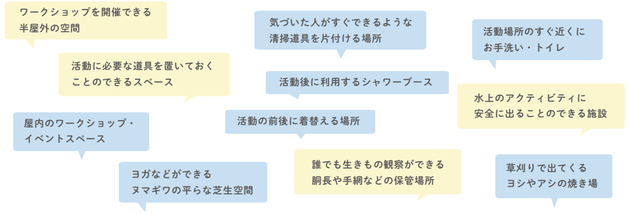
釣り人との関係

複数団体による活動範囲の重複の防止

メンバーが優先利用できるクラブスペースを用意しよう

手軽に活動するのに必要な機能の意見収集

クラブメンバーへのヒアリングで、ヌマベでの活動に必要な機能をリストアップします。



例｜今後検討していく機能・設備のイメージ

更衣室＆シャワーブース

更衣室　シャワー　物品保管スペース

水との関わりが深いフィッシングセンターでのアクティビティに不可欠な更衣室やシャワーなどの設備を考えます。

ヌマギワ活動拠点

脱衣スペース　洗い場　ヨシやアシの焼き場

ヌマギワでの活動の前後に必要な着替え場所や洗い場について、例えば農水省管轄の水門管理小屋の活用した設備を考えます。

ガサガサ用シェッド

生きもの観察に必要な用具置き場　環境整備に必要な用具置き場

観察池で気軽にガサガサや環境整備ができるよう、胴長や手網などの観察用具や環境の維持管理用具の収納スペースを考えます。

ヌマラボ

ワークショップ・イベントスペース　収納スペース　休憩スペース

フリースペースと収納スペースを設けるために、水産会館のピロティ空間をリノベーションしました。
ワークショップやイベントの会場、商品の展示会として、通常は休憩スペースとして活用されています。

桟橋

水上アクティビティの拠点

カヌーや SUP などの発着点や水辺に近づくことのできる場所として活用されています。

クラブスペースの将来イメージ

ヌマベ利用シートで手続きを一括にしよう

ヌマベ利用シートにより、備品貸し出しやフィールドの利用許可申請、広報などの運営の支援を、ヌマベクラブ事務局がワンストップで引き受けます。

備品レンタル情報

ヌマベでのアクティビティを豊かにするキットの貸し出しを行います。

ウッドデッキやイスなど

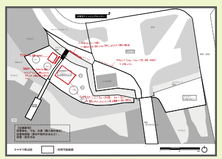
運営サポート情報

広報や意見交流会の開催、当日のスタッフ派遣など、プログラム全体を裏からサポートします。

ホームページやチラシによる広報

利用許可申請情報

活動に必要となる利用許可申請を行います。
ヌマギワを利用する際は設置図が必要になります。

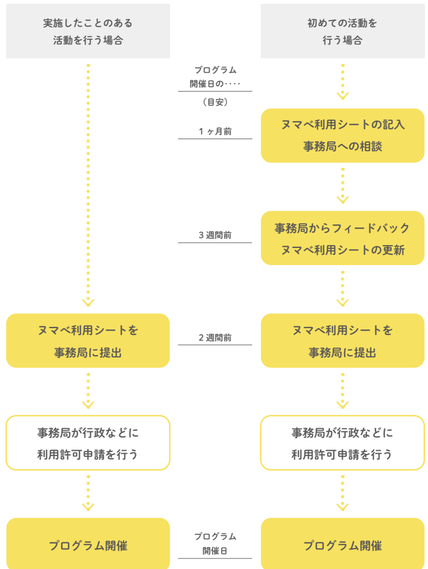


設置図の例

ルールブックへの同意

共通の活動ルールに同意していただくことで準備や申請などが簡単にすることができます。

ヌマベ利用シートの提出フロー



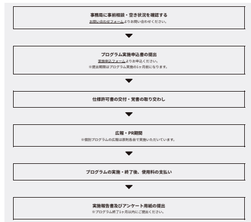
事例｜おとがワ！ンダーランド　愛知県岡崎市

乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画（QURUWA 戦略）の一環で進める、乙川河川敷を対象エリアにした水辺空間活用の実験的プロジェクトです。プログラムの実施を促進する仕組みを整えています。

プログラム実施申込書（一部抜粋）

https://otogawonderland.jp/programs/application/

使用申請の流れ

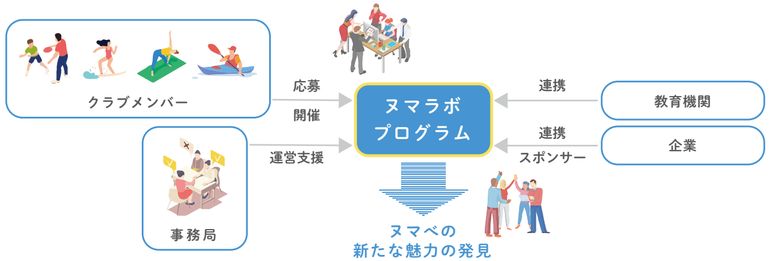


みんなで楽しむヌマベを目指して ④

魅力を発見しよう

ヌマベの新たな魅力や新しい楽しみ方を見つけましょう。ヌマベクラブ内外の様々な団体・組織と連携し、公共性の高い『ヌマラボプログラム』や定期的に開催する社会実験『テガヌマウィークエンド』を開催し、ヌマベの価値を探究し続けます。

ヌマラボプログラム：公共性の高いチャレンジを応援しよう



取り組み実績❶
「生きもの観察会」

参加が自由にできる自然体験の機会として、観察池で毎月開催しました。生息生物の種類や個体数が多様になっていく変化を確認しました。

取り組み実績❷
「生きもののすみかを創ろう」

多様な生物が生息可能な環境条件を、子どもたちとともに議論し、観察池を舞台により多様な生きものの暮らす環境づくりを実践しました。

取り組み実績❸
「箱庭に秋の手賀沼を飾ろう」

手賀沼周辺を探検し、自然を切り取って竹の器にアレンジしました。箱庭・盆景を作る中で、手賀沼の歴史・文化の感性を再現しました。

例 | ヌマラボプログラムの活動イメージ

生きものの原っぱづくり

子どもたちと一緒に、多様な生き物が暮らしやすい草原に向けて少しずつ手入れをしていきます。

生きものの目線になって
遊びと学びをくっつける

サンセットプログラム

綺麗な夕陽をヌマベで楽しんでもらうために、カフェやアクティビティ、キャンプをパッケージ化して提供します。

体験・滞在・創造価値の提供
四季・時間変化を楽しむ

http://shinmatsudo-zouen.com

ヌマベの植物を育てよう

ヌマベの樹木や草花の手入れの方法を学び、植物を自分たちの手で育てて、元気にしていきます。

子どもと一緒に
二次的自然・エコトーン再生

https://www.designboom.com/art/ocean-trash-photo-collages-by-mandy-barker/

アートからゴミ問題を伝える

手賀沼に漂流・漂着するゴミでアート作品を制作し、手賀沼のゴミ問題について考えていきます。

環境問題に目を向ける
アートで環境学習

https://suiken-teganuma.org

外来水生植物を駆除しよう

手賀沼に繁殖し、農業被害や沼の生態系への悪影響が指摘されている外来水生植物を駆除していきます。

生態系の回復
環境問題に目を向ける

https://tulasendlesssummer.com/living-off-grid-on-a-sailing-catamaran/

オフグリッドの船づくり

遊び場やコワーキングスペースを設けるよう船を改造します。ヌマベ同士を繋ぎ、豊かな水上体験を生み出します。

水上アクティビティ
スマートでスローなモビリティ

テガヌマウィークエンド：クラブメンバーが一緒になって社会実験に取り組もう

検証項目	テガヌマウィークエンド vol.1 ヌマベ ザシキ	テガヌマウィークエンド vol.2 ヌマベ ビラキ	テガヌマウィークエンド vol.3 ヌマベ クラブ
コンテンツ	居場所づくり	10 の体験プログラム	ジモト団体による持ち込み全 19 企画
エリア	堤外地（ヌマギワ）を使ってみる	フィッシングセンターと繋ぐ	曙橋とその向こう側も
ターゲット	模索	子ども・親子をメインに	流域住民
開催期間	2 日間・イベント	2 日間	4 週末 8 日間・日常化へ
開催主体	東大・協議会	東大・協議会・いくつかのジモト団体	東大・協議会・ジモト 10 団体
許可申請	柏市による申請	協議会による申請	ヌマベ利用シートによる簡単な申請

見えてきたこと

ヌマベの居心地の良さ

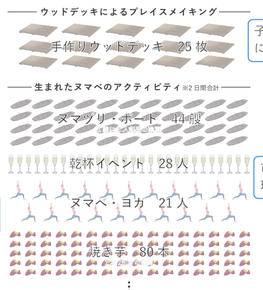
水上アクティビティが好評

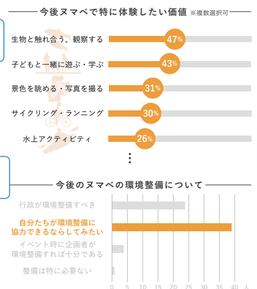
子どもと一緒にやる重要性

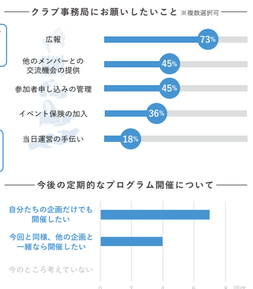
市民による環境整備意向

ヌマベクラブの運営◎

日常的な開催・来場ニーズ







社会実験の進め方

これまでの社会実験を振り返る

これまで開催してきた社会実験の検証テーマや見えてきたことを整理します。

「学」チームを中心に検証項目の設定を行う

学と有志で社会実験の検証テーマを設定します。クラブメンバーと意見交換を行い、事務局が開催をサポートします。

クラブメンバーで企画を持ち寄って開催する

検証項目に沿って、ヌマベクラブみんなで企画を持ち寄り、社会実験を開催します。

「学」チームを中心に検証項目の効果を分析する

学と有志でアンケートやヒアリングなどを行い、検証テーマの効果測定をして、考察をまとめます。

例｜ウィークエンドでの検証テーマのイメージ

新たなヌマベとの連携・協力

ヌマベの複数拠点で連携して開催

様々なヌマベを巡るヌマベツアー

全国のヌマベでヌマベを楽しむ1ヶ月ヌマベリングウィークエンド

ヌマベでの取組を共有し学び合うヌマベリングサミット

ヌマベの新たな挑戦

冬の田んぼに水を張ってみるなど鳥とコラボしてみる

ヌマベ同士・ヌマベとまちを繋ぐサイクリング・遊覧船・MaaS

曙橋を活用してみるなど干拓遺産・なりわい遺産の活用

新たなライフスタイル

サンセットからサンライズのヌマベの滞在ニーズの発掘

ウォーキングやサイクリングなどの健康・Well-being

デジタルから解放され、本物の自然に包まれる

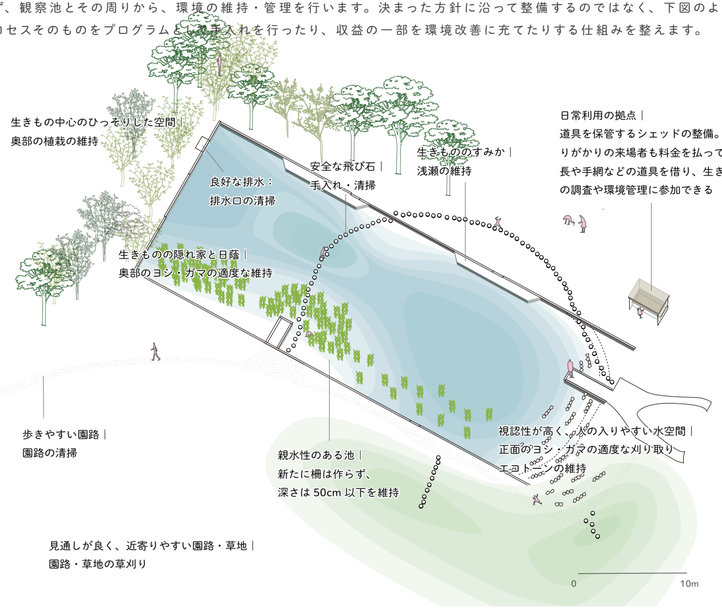
みんなで楽しむヌマベを目指して ⑤

環境を整えよう

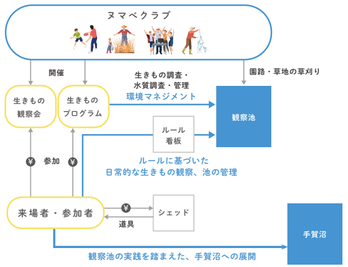
自分たちのフィールドを自分たちで整えていきましょう。様々な団体・組織と連携して、ヌマベのゴミ拾いや草刈りを定期的に実施していきます。水辺の拠点に再投資するヌマベファンドを運用していきましょう。

観察池の創造的な環境マネジメントを実践しよう

まず、観察池とその周りから、環境の維持・管理を行います。決まった方針に沿って整備するのではなく、下図のような緩やかな方針のもと、試行錯誤しながら環境を整えていきます。プロセスそのものをプログラムとして受け入れを行ったり、収益の一部を環境改善に充てたりする仕組みを整えます。



継続する仕組みづくり・手賀沼への展開



事例｜舟橋村園むすびプロジェクト
富山県舟橋村

京坪川河川公園（オレンジパーク）では、造園業者と子どもたちが協働で公園づくりに取組んでいます。公園管理ではなくコーディネートと捉え、「こども公園部長」など創造的な仕組みが運用されています。

https://parkful.net/2018/07/funahashi-enmusubi/

手賀沼全体の美化活動に参加・協力しよう

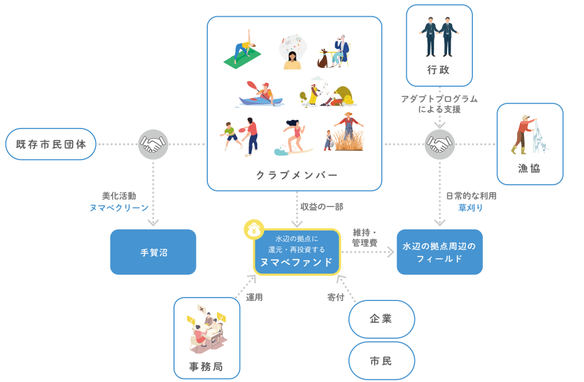
既存団体と協働して行う清掃活動「ヌマベクリーン」を、ヌマベクラブとして積極的に行っていきます。ヌマベクラブによる「手賀沼流域クリーンアップ大作戦」による定期的な清掃活動の実施や、美しい手賀沼を愛する市民の連合会が主催する「手賀沼統一クリーンデイ」にヌマベクラブとして参加します。

手賀沼流域クリーンアップ大作戦の様子
https://tegaryoku.com/teganuma_cleanup_events-2/

2020年度「手賀沼統一クリーンデイ」チラシ
https://www.biteren.com/

水辺の拠点に還元する仕組みを整えよう

クラブメンバーが漁協と協働して「草刈り」や「花植え」を行います。「千葉県河川海岸アダプトプログラム」による行政の支援を受けて、環境整備のサポートを受けます。遊歩道の指定管理者とともに一体的な草刈りを実現します。



みんなで楽しむヌマベを目指して ⑥

未来を描こう

手賀沼の将来像を語り合い、実験を重ね、描いていきましょう。ヌマベクラブのメンバーで、マスターコンセプトに沿った活動・実践のアイディアを出し合い、具体化して実行してみます。「学」の視点を取り入れて客観的に分析し、マスターコンセプトを継続してアップデートしましょう。

4つのステップで未来を描き続けよう

04 LEARN

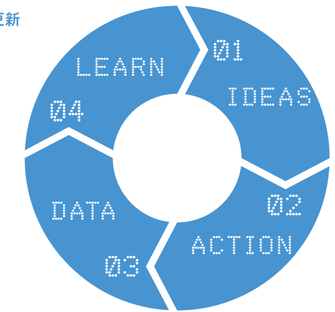
マスターコンセプトを
バージョンアップする

学識によるマスターコンセプトの更新
メンバーとの意見交換
公民学漁の意見を反映
勉強会の開催

01 IDEAS

マスターコンセプトに沿って
実践を計画する

プログラム等の企画
行政との協議
メンバーの活動を支えるスキーム



03 DATA

データを計測し、
意見を収集する

アカデミックな視点
仮説・調査項目の設定
データの観測・分析
メンバーへのヒアリング調査

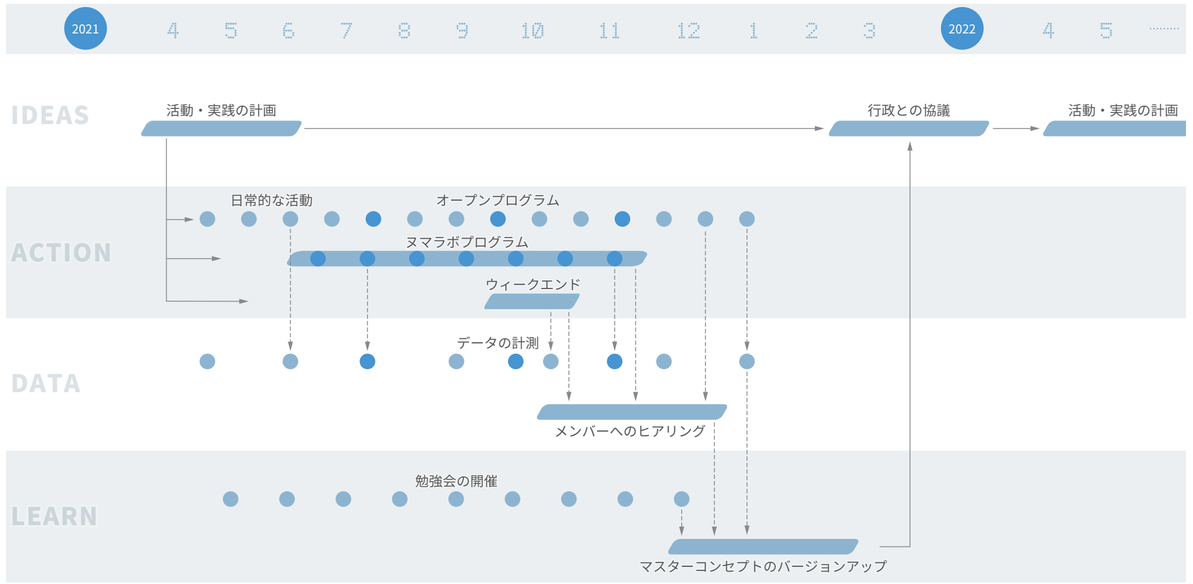
02 ACTION

アイデアを具体化して
実践してみる

日常的なヌマベでの活動
ヌマベの環境マネジメント
ヌマラボプログラム
テガヌマウィークエンド

みんなでヌマベクラブの活動サイクルを回そう

例｜ヌマベクラブの１年間の活動イメージ

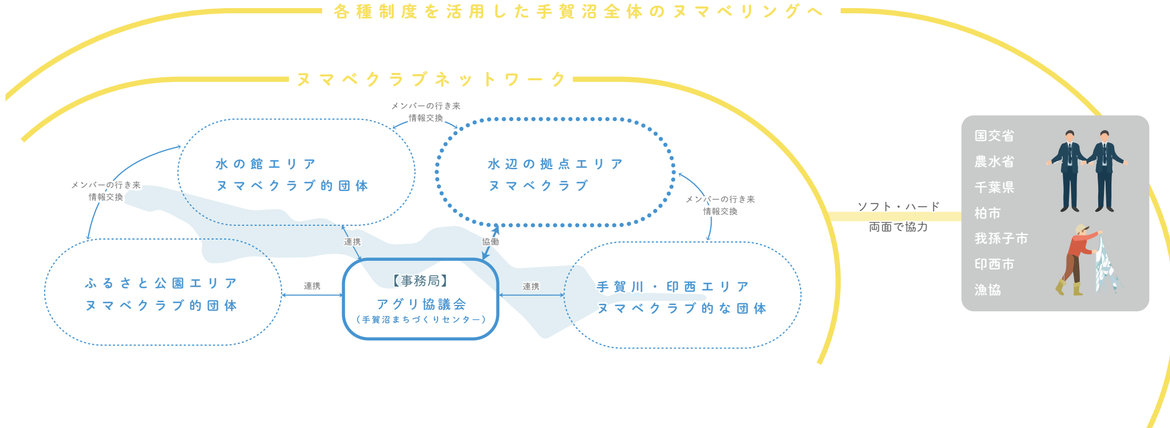


多くの「公」と協働するヌマベクラブへ

公民学漁の「深堀り」にむけた連携イメージ

手賀沼全体にヌマベクラブの輪を広げる

公民学漁の「横展開」にむけた連携イメージ



ヌマベクラブからヌマベリングへ：奥手賀・水辺の拠点で公民学漁連携モデルを実践し、

その輪を徐々に手賀沼全体に広げる「ヌマベリング」へと展開します。

5．ヌマベリング　人と沼の接点を広げていく

6．奥手賀エリア　「水辺の拠点」から「奥手賀」へ

7．ヌマベの再生　ひとつながりのヌマベを目指して

第二部　「水辺の拠点」発・　未来ビジョン素案

ヌマベリング
人と沼が接する場を
広げていく

ヌマベを楽しむ市民だけでなく、ヌマベを管理する行政も含めた連携に取り組むことで、ヌマベ活用の可能性を広げ、より多くの人が持続的にヌマベに関わる門戸を広げます。将来的には、手賀沼全体のヌマベのソフト活用からハード整備について官民協働で構想することを目指します。「ヌマベリング」はそのためのムーブメントです。まずは「ヌマベクラブ」と「水辺の拠点」からはじめて、徐々にその輪を広げていきます。

ヌマらしさを尊重したミズベリング＝ヌマベリング

ミズベリング

ミズベリングは2013年末ごろから全国的に進められている、新しい水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体の協働プロジェクトです。
ミズベリングの語源は、
・「水辺＋RING（輪）」、
・「水辺＋R（リノベーション）＋ING（進行形）」
水辺に興味を持つ市民や企業、行政が三位一体・ひとつの輪となり、持続可能な水辺の未来に向けて改革していく。そんな意味が込められています。
ミズベリングは、水辺を愛する人が主体的に関わり、水辺とまちが一体となった景観、にぎわい、新しい水辺と社会の関係を生み出すムーブメントを、つぎつぎに起こす取り組みです。

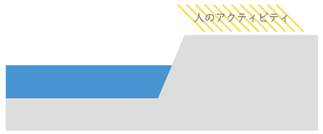
信濃川・やすらぎ堤の事例
https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/map/chubu/shinano_gawa.html

を進めていきたいと考えています。

ミズベリングとヌマベリング

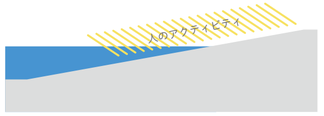
「ヌマベリング」はこのマスターコンセプトブックにおける造語です。ミズベリングの理念も取り入れつつ、しかしヌマの持つ環境価値を失わないために、以下を重視した取り組みにします。

MIZBERING
ミズベリング



深くなるのが早い／流れが速い／アクセスが限られる

NUMABERING
ヌマベリング



より緩やかに連続／流れが遅く、暮らしが環境に反映されやすい／どこからでも沼に入れる

コンセプト

- まちにある川や水辺空間の賢い利用
- 周辺地域・文化を「つかいこなす」
- 市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン

キーワード

にぎわい　テラス　イベント　水辺とまち　都市の顔　商業　カフェ　民間企業　文化　新しい水辺　ムーブメント　アート　社会　居場所

＋

ヌマベリングでは…

1. より「横断的」に使いこなしていく
   水面から台地までのエコトーン体験は沼の財産です。
2. より流域市民が主体的に関わる
   流域の生活の影響が現れやすいのが沼の特徴です。
3. より「ハビタット・生息環境」を尊重する
   人間をあらゆる生きものの一つのひとつと捉えます。
4. 「なりわい」と結びついて活動する
   生業を支え、文化を育んできた歴史をつなぎます。
5. 使うことを目的化せず「守るために使う」
   目的と手段を間違えないことで持続性を保ちます。

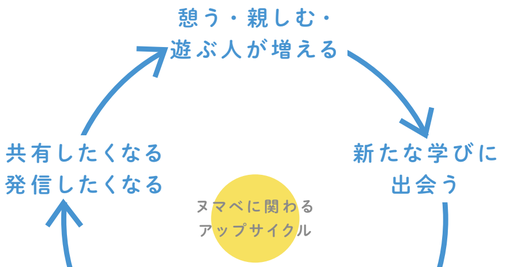
＋αのキーワード

生きもの　エコロジカル　体験　エコトーン　漁業・農業　市民活動　自分たちで　歴史　環境問題　入り込みやすさ　地域の鏡

人と沼が接する場を広げていく

ヌマベリングのムーブメントを広げよう

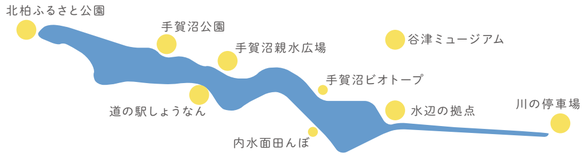
ヌマベリングムーブメントが目指すもの



・手賀沼に無関心だった層（＝潜在的な関心層）に対する入口をつくる
・従来の市民活動団体を、次の若い世代に接続する
・「遊ぶ」からはじまり、「学ぶ」へと誘われる場を増やす

STEP1 手賀沼のヌマベ同士をつなぐ

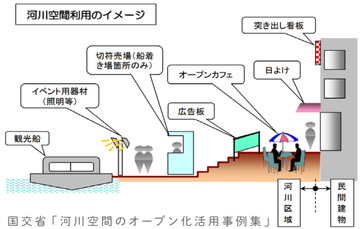
・ヌマベ全体で連携したイベントの開催
・流域のヌマベ活動のフィーチャー
・遊覧船、レンタサイクル、バス等のモビリティ実験の継続



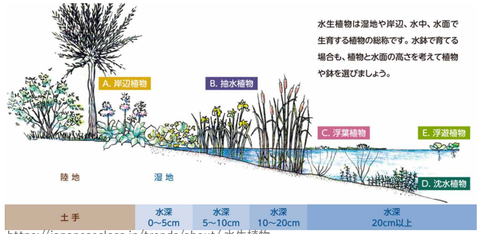
ヌマベめぐり　# ヌマベツアー」

STEP2 ヌマベリングの定義を議論・発信する

・他の沼や河川における事例の視察や交流
・ヌマベリングに関する地元での議論や実験の場づくり
・ヌマベリングを冠したイベントの支援やサポート



国交省「河川空間のオープン化活用事例集」



https://japaneseclass.jp/trends/about/ 水生植物

STEP3 全国的なミズベリング企画への参加

・ミズベリングフォーラムなどへの参加
・柏・我孫子・印西の３市連携でミズベリングに加盟
・ヌマベリングを通じた環境共生の考え方を全国に発信

MIZBERING ミズベリング

荒川下流 / 浅草（あさくさ）レトロカフェ / ISHINOMAKI / イワハラガワ / EBETSU
OKAYAMA ASAHIGAWA / KANOGAWA / KUMAMOTO / SAPPORO / 新町川を守る会
水都大阪 / たじみ河川敷サンデーマーケット / CHITOSE / TESHIO / とうほく
新潟水辺の会 / NIKOTAMA / 花巻 / FUEFUKI / FUJIKAWA
みつは / yasuragitei / ヨコハマニシグチ / WAKAYAMA / さがクリークネット
おかやワンダーランド / FUN CLUB FUKUOKA / ハママツ / MIZU中部 / in 名張川
MIZUBE わかやま 水辺プロジェクト / NAGOYA / 彩の国 埼玉県 / まじめ川 / TAKESHIBA
しげのぶがわ / 高津川

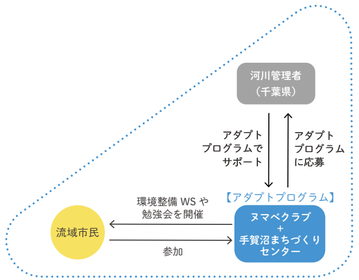
人と沼が接する場を広げていく

公民学漁連携で水辺まちづくりの制度を上手に使おう

公民学漁連携を進めるなかで、アダプトプログラムや河川協力団体制度といった制度を活用することで、より活動を充実させることができます。
手賀沼全体にヌマベクラブの輪が広がれば、かわまちづくり支援制度等も活用し、ソフト／ハード両面からヌマベリングを実践できます。

千葉県河川海岸 アダプトプログラムの活用

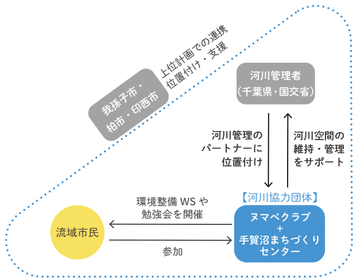
ヌマギワの環境維持・管理をサポートしてもらえる
公共空間で日常的にアクションできる
一定の区画に対し責任を持った管理に取り組める
活動の公共性を認知してもらえる



手賀沼まちづくりセンターとヌマベクラブが中心になり、流域市民とヌマベリングの活動を広げるためのベースをつくっていきます。水辺まちづくりの第一歩として、手賀沼の河川管理者である千葉県の河川海岸アダプトプログラムに応募し、環境整備に対するサポートを受けるところからはじめます。

河川協力団体制度の活用

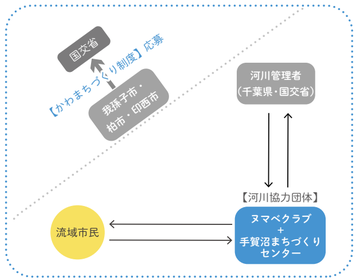
ヌマギワの環境維持・管理をサポートしてもらえる
ヌマギワの占用許可等が簡素化される
河川管理者との関係を積極的に構築できる
河川管理者からの委託を受けられる



手賀沼まちづくりセンターとヌマベクラブは共同で、河川管理者（手賀沼は千葉県、手賀川は国交省）に対して「河川協力団体」に応募します。河川協力団体としての公共的な活動実績を積み重ねた上で、柏市や我孫子市・印西市はそうした取り組みを上位計画等で位置付けることで支援していきます。

かわまちづくり支援制度の活用

かわまちづくり計画を自治体（市）が掲げる
河川管理者と推進主体の連携強化
ヌマとまちをつなぐソフト施策の支援を受けられる
ヌマとまちをつなぐハード施策の支援を受けられる



「河川協力団体制度」活用により河川管理者との関係性を構築したうえで、手賀沼まちづくりセンターは我孫子市・柏市・印西市に働きかけ、「かわまちづくり計画」の策定へと進みます。3市は、国交省に「かわまちづくり支援制度」の申請を行います。選定されればソフト・ハード両面での支援を受けることができます。

ミズベリングに関係する制度一覧

資料・画像はいずれも国交省ならびに千葉県ホームページより引用

（身近・短期・ボランティア的） （本格的・長期・事業的）

千葉県河川海岸 アダプトプログラム

概要

アダプトプログラムとは、一定区間の公共の場所において市民団体や企業が美化活動（清掃）を行い、行政がこれを支援する制度で2008年に始まりました。
道路や河川など公共の場所の一定区画が、住民と企業によって、愛情と責任をもって清掃美化されることから、「アダプト（養子にする）」にたとえられています。
この制度では、行政と市民団体などが合意書を交わしたうえで、行政からは「清掃用具の提供、傷害保険への加入、サインボード（看板）の提出、ゴミの回収」などの支援が行われます。

千葉県下では

千葉県全体で71団体が指定を受けています。手賀沼流域で4団体（美手連・亀成川・大堀川×2）が指定を受けて活動中。

河川協力団体制度

概要

2013年の河川法改正で『河川協力団体制度』が設けられました。自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行うNPO等を支援するものです。河川協力団体としての活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人を河川管理者が審査します。過去5年以上の活動実績が必要となります。
河川協力団体は、河川の管理に属する事項の委託を受けることが出来ます。また、河川管理者側の積極的な窓口対応、占用に伴う手続きの簡素化などのメリットがあります。

千葉県下では

「水の郷さわら、川の駅ガイド会」が指定を受けています。県内は1事例のみです。（関東地方整備局管内では34事例）

河川空間のオープン化 都市・地域再生等利用区域

概要

「河川をにぎわいのある水辺空間として積極的に活用したい！」という要望の高まりを受けて、2011年度に河川敷地占用許可準則が改正。営利事業者も河川敷地の利用が可能に。いまでは最大10年の占用も。占用の条件は次の通りとされています。

1. 河川敷地を利用する区域、施設、主体について地域の合意が図られていること。
2. 治水上及び利水上の支障がないこと等の基準に該当すること。
3. 都市・地域の再生及び河川敷地の適正な利用に資すること。

千葉県下では

松戸・新坂川の1事例。利用調整協議会（市、県、地区長、商店長等）で決定する施設使用者に親水テラス利用を許可。

かわまちづくり支援制度

概要

市町村や民間事業者、地域住民と河川管理者が連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す取組です。
「かわまちづくり」支援制度にもとづき、河川管理者がハード・ソフト面で支援を行います。最終的には自治体が申請し、河川管理者が支援します。流域市町村が「かわまちづくり計画」を策定したものを応募し、選定されることが必要になります。選定されると、重点事業などを行うことができます。2019年度時点で229地区が登録されています。

千葉県下では

印旛沼流域かわまちづくり、流山市地区かわまちづくり（江戸川）、松戸市地区かわまちづくり（坂川）の3事例があります。

人と沼が接する場を広げていく

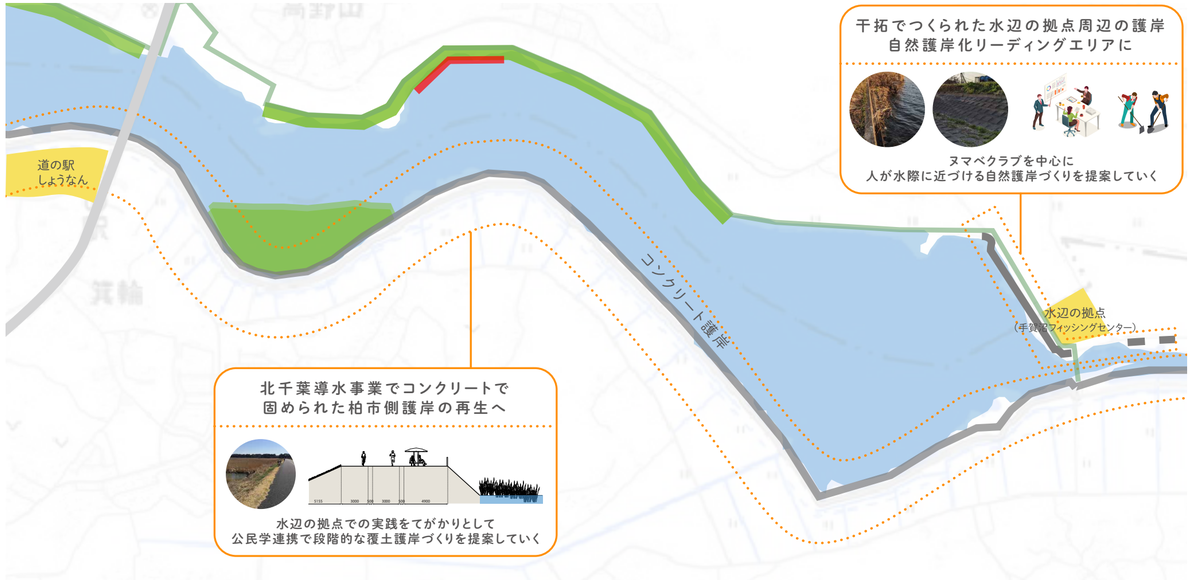
人が沼に近づける空間づくりを進めよう

ストックを生かしたヌマベのオープン化

アクセスのよいヌマベでは、活用に関心ある市民や事業者を積極的に募集していきます。また多数の小さな居場所がある道の駅しょうなん～水辺の拠点間で、それらのスペースをより気軽に市民や事業者に使ってもらえる仕組みを整え、そこで得た収益を環境維持に還元していきます。

手賀沼自然護岸化の推進

水辺の拠点の周辺に残る一直線のコンクリート護岸。長期的に、人が水際に近づき、手を加え続けやすい、水と陸の生きものが往来する自然護岸の回復を目指します。将来的には柏側のコンクリート護岸について、段階的により生態系にやさしい護岸に戻していきたいと考えています。

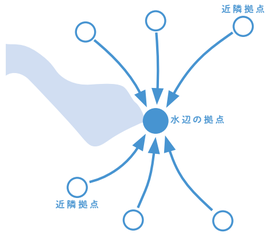


奥手賀エリア
「水辺の拠点」から
「奥手賀」へ

手賀沼の東側のエリアを指す「奥手賀エリア」は、戦後に手賀沼が大規模干拓されるまで、大きな手賀沼の中心に位置していました。すなわち、本来の手賀沼が有していた湿地環境の中央かつ、歴史文化的環境の中央でもあります。奥手賀は、現在の手賀沼より広域な、手賀沼の本来の環境・文化の再発見に直結するはずです。
もともと農業をなりわいの中心とするエリアですが、近年は様々な体験・創造・滞在を提供するプレーヤーが増えてきています。そうしたプレーヤーたちを「水辺の拠点」が結び付けることで、奥手賀をひとつのエリアブランドとして確立していくことを目指していきます。

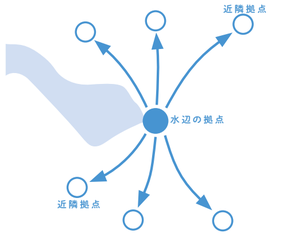
水辺の拠点 4 つの役割

あつめる、そろえる



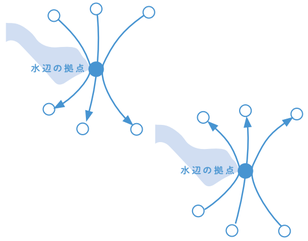
奥手賀エリアの周辺情報をとりそろえる一方で、ジモト事業者たちが集い、コラボしたくなる場づくりを進めます。

おすそわけする



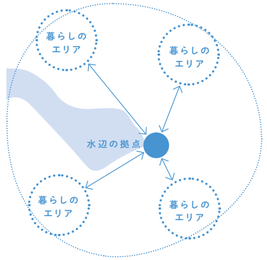
水辺の拠点でできるアクティビティを、奥手賀エリアの各施設にも提供します。「奥手賀ツーリズム」としてのツアー化も目指します。

つたえる、媒介する



我孫子や柏の取組みと連携し、積極的に対岸との文化交流を図ります。交通の乗換機能やマップ・サインの充実も重視します。

ともに暮らす

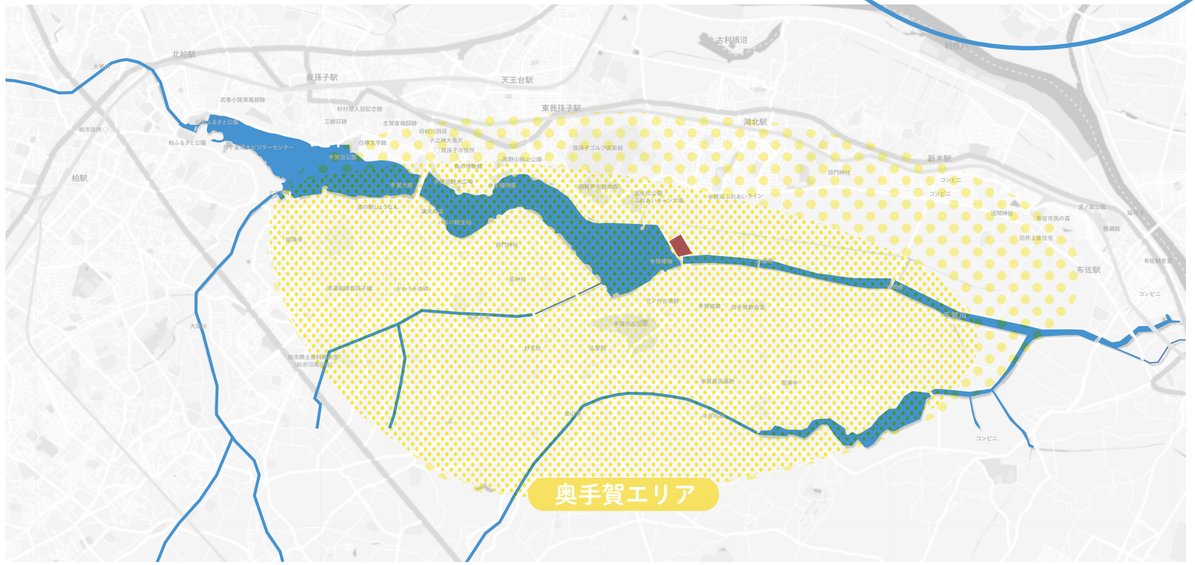


奥手賀エリアのライフスタイルの魅力向上を支える場とします。小商い・ワーケーションの他、学校や福祉施設との連携を育みます。

奥手賀の魅力

農
知的さ
グリーンツーリズム
若さ
スロー
手間ひま
知る人ぞ知る
上質さ
チャレンジ
食
人
自由さ

「奥手賀」エリアで様々なコラボレーションを育みながら、
エリアの価値を高める（ブランディングする）ことを目指します。



奥手賀エリアをつなぐ「水辺の拠点」

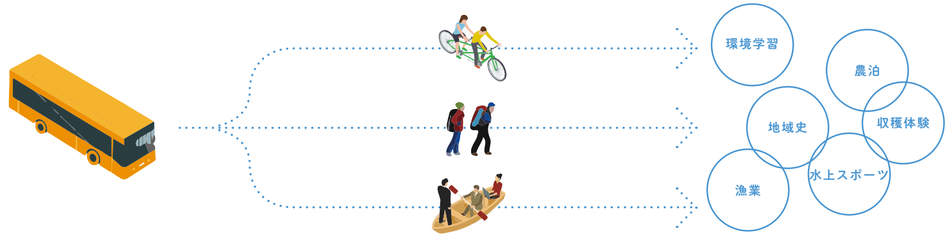
グリーンツーリズムへの入口機能

奥手賀体験の発着拠点に

道の駅しょうなんで奥手賀エリアの全体像を案内することはもちろん、プログラム提供ができ、駐車台数も十分に備えた水辺の拠点を、奥手賀エリア誘導・案内の第二の拠点として位置づけています。個々の体験スポットの情報をしっかりと「水辺の拠点」で収集し、発信していくことを大切にします。

教育機関と連携した体験学習の機会づくり

水辺の拠点周辺には、数々の教育機関が立地しています。大型バスも停められる水辺の拠点に集合し、ウォーキング・サイクリング・船による水上探検へ。現代の子どもに足りていない実体験のある課外学習の機会を、奥手賀で力を合わせて提供していきたいと考えています。



アクティビティのわかりやすいパッケージ化

奥手賀には、デイキャンプから連泊まで、ゆっくりと滞在できるスポットが多数増えてきています。奥手賀エリアの滞在客に、ヌマベでどんなアクティビティができるのか一元化した情報収集＆予約ができれば、体験の主催者側も、滞在客側もうれしいはず。そんな仕組みを、奥手賀全体で整えていきたいと考えています。

奥手賀エリアをつなぐ「水辺の拠点」

ポップアップ&チャレンジを応援する

水辺の拠点でのポップアップ出店を

「奥手賀」のコンセプトに共感してくださる事業者・団体さんの宣伝・PR の場として水辺の拠点を活用してもらうべく、そのための場づくり・機会づくり・仕組みづくりを積極的に行っていきます。ヌマベクラブや手賀沼フィッシングセンター内のコンテンツとコラボレーションを通じて、奥手賀に関心ある外部事業者を引き込むことも目指します。

カフェのメニューとして

BBQ の食材として

キッチンカーとして

イベント出店で

キャンプ器材として

水辺の拠点でのチャレンジショップを

ジモトに住まわれている市民や団体の方々には、チャレンジショップというかたちでより気軽に水辺の拠点を試しに活用していただくことで、奥手賀エリアの新規プレーヤー発掘をどんどん進めていきます。

活動の宣伝に

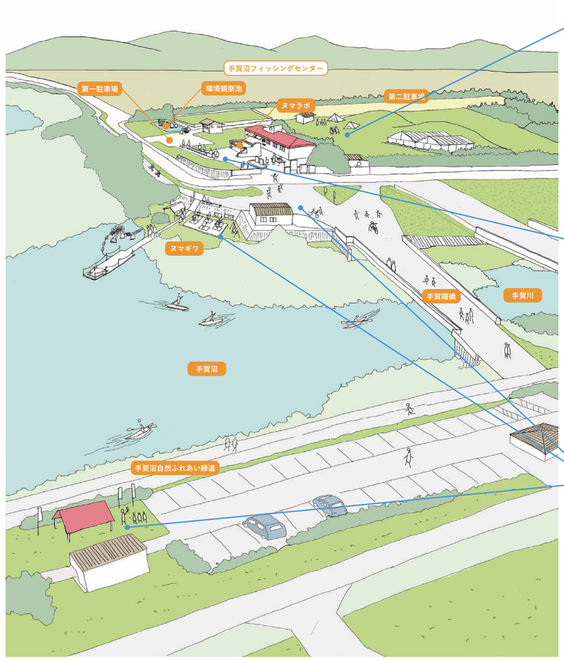
商品を知ってもらう

小商いをはじめる

ワークショップの場に

定期的なミニイベント

周辺を含めたポップアップ&チャレンジ区画の設定戦略



step1 漁協やアグリ協議会のエリアから

まずはカフェやヌマラボ、駐車場脇の漁協エリアなどから、ポップアップ出店やチャレンジショップの開設を受け入れ、応援していきます。

step2 水辺の拠点のなかにも区画を設定

柏市が借地して整備した水辺の拠点の中に、一定の手続きを経て営利事業を認める区画を設定しておき、ポップアップ出店やチャレンジショップの開設を受け入れ、応援していきます。

step3 敷地を飛び出し、「ヌマベ」でのチャレンジも

一定の手続きを経て営利事業を認める区画を敷地の外側にも設定できないか、各スペース管理者と協議・検討し、ポップアップ出店やチャレンジショップの開設を受け入れ、応援していきます。

ヌマベの再生
ひとつながりの
ヌマベを目指して

水辺の拠点周辺の「ヌマベ」は、漁協への補償地として与えられた後、衰退する漁業とともに徐々に分割され、分断され、人の手がかからないように作り替えられ、放置されてきました。
現代に生きる私たちは、人にとっても、生きものにとっても「ひとつながりのヌマベ」を再生していく責務があると考えています。50 年、100 年とかかることかもしれませんが、それはきっと水辺の拠点ならびに手賀沼流域の暮らしをみんなで楽しみ支えていく上で、大きな基盤となるはずです。

田んぼや施設裏側への展開

RESTORATION

水辺の拠点で進めた
「わんどに学ぶ」デザイン

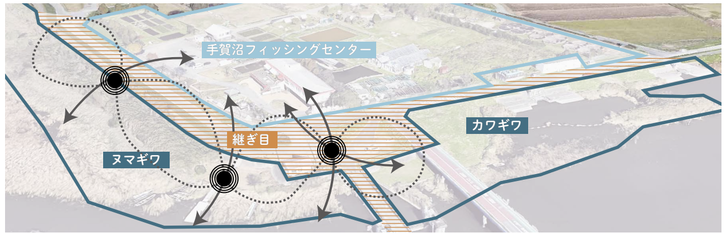
ヌマギワや橋詰への展開

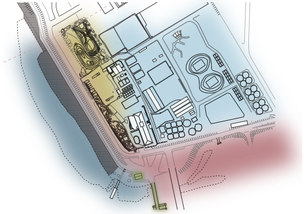
地元の活動ニーズや環境整備への関心の高まりを踏まえながら、「ひとつながりのヌマベ」をキーワードにヌマベの再生を提案していきます。

ひとつながりのヌマベ再生の方向性①

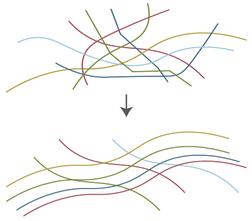
平面方向にひとつながりに

フィッシングセンターと ヌマギワをつなげよう





管理の差による様々な境界
▼
境界をあいまいにする

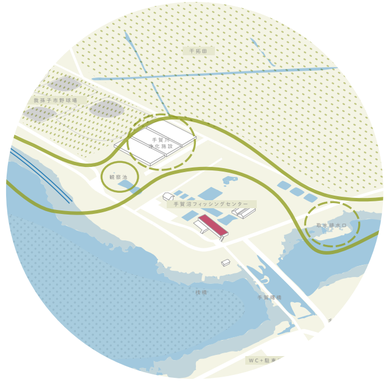


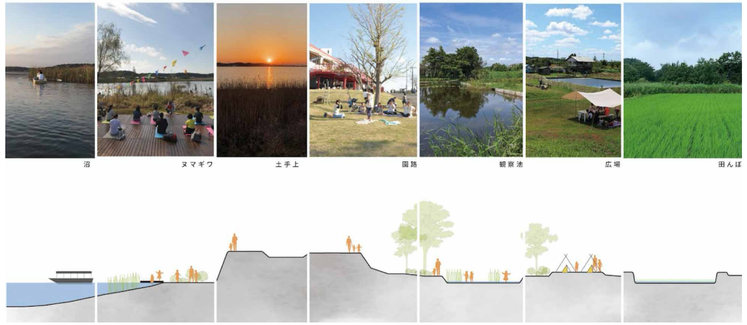
錯綜した動線
▼
絡まりをほどく

ひとつながりのヌマベ再生の方向性②

断面方向にひとつながりに

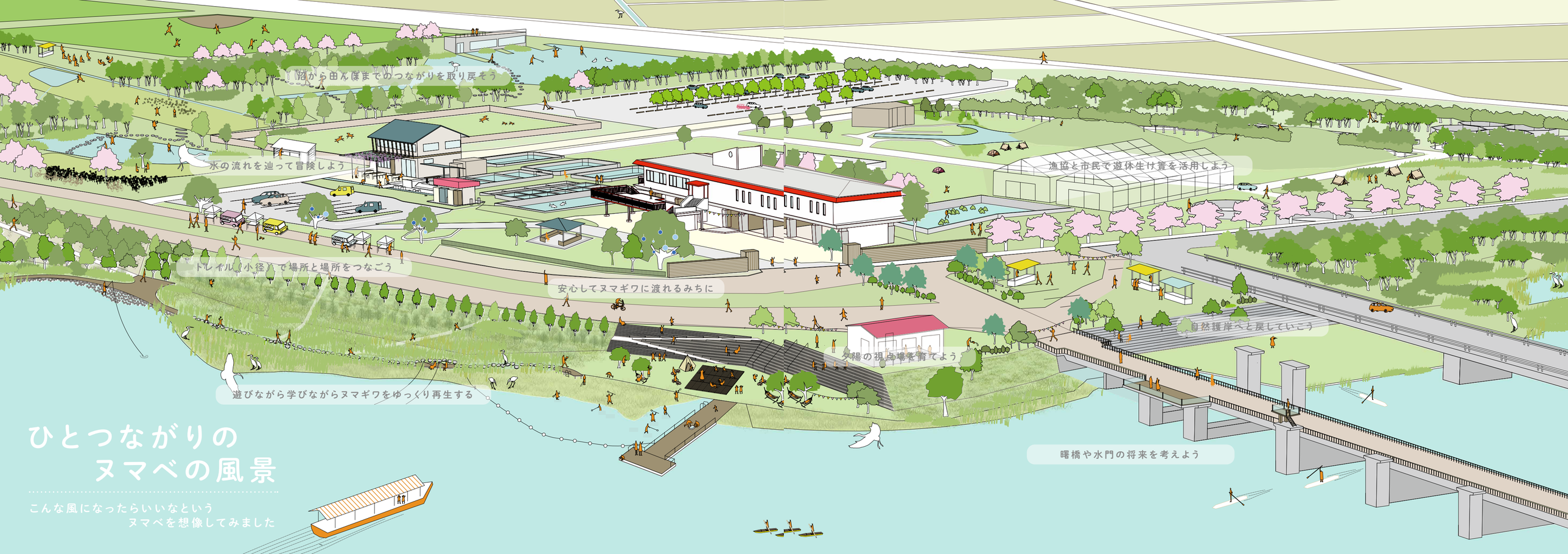
手賀沼と田んぼを つなぎなおそう





分断された生きもののみちを回復する必要性

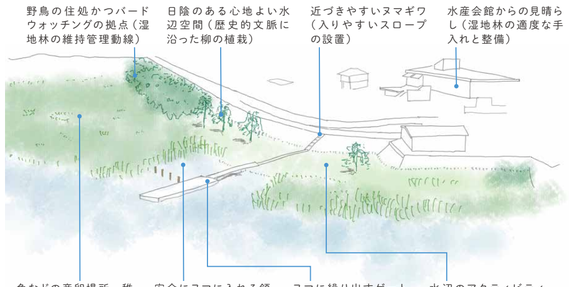
ヌマベのエコトーンを横断的に体感できる環境


沼から田んぼまでのつながりを取り戻そう
氷の流れを辿って冒険しよう
漁協と市民で遊休生け簀を活用しよう
トレイル（小径）で場所と場所をつなごう
安心してヌマギワに渡れるみちに
自然護岸へと戻していこう
夕陽の視点場を育てよう
遊びながら学びながらヌマギワをゆっくり再生する
曙橋や水門の将来を考えよう
ひとつながりの
ヌマベの風景
こんな風になったらいいなという
ヌマベを想像してみました

ヌマギワをゆっくり再生しよう

step1 安全に管理できるヌマギワに向けた下準備

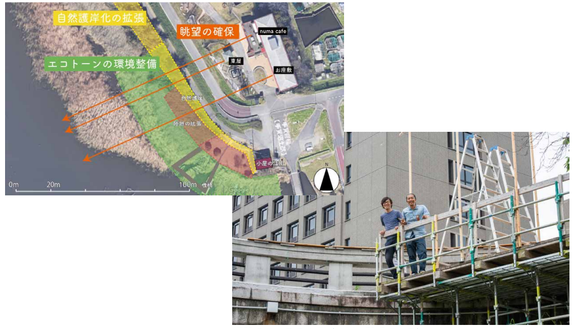
- 市民主体の管理をやってみる
- ヌマギワでの遊びを集めたイベント開催
- アダプトプログラムを通じて千葉県柏土木との関係づくり
- 管理を支える水場、道具置き場、管理動線づくり
- 所有者不明ボートの整理
- 沖合の水深や底質などを調査したマップの作成



ヌマベを管理していくうえでの論点の例

step2 遊びながら学びながらヌマギワづくり

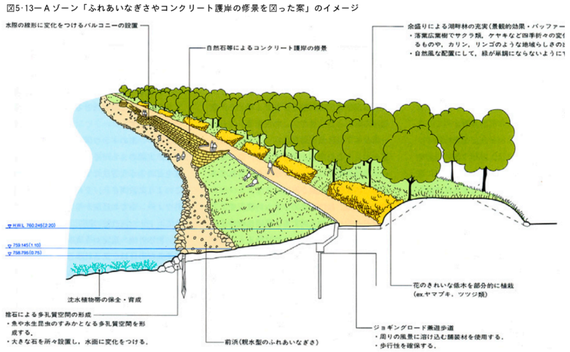
- 手賀沼まちづくりセンターを中心に河川協力団体に登録
- 継続的なヨシ原の保全、エコトーンづくり
- みんなで浅瀬をつくってみる
- ヌマギワに降りられる仮設のスロープの設置
- 国交省、千葉県、専門家、市民合同の自然護岸検討会議の設置
- 様々な自然護岸の視察、勉強



仮設のテラスの事例（乙川・殿橋テラス）
https://otogawonderland.jp/diary/entry-173.html

step3 段階的な自然護岸化を目指して

- 人が昇り降りしやすく、生きものも往来しやすい自然護岸の提案
- 気軽に「ヌマハマリ」ができるエリアの設置
- 漁協所有の桟橋や階段の再整備と、スロープの新設
- より広域的な自然護岸化の検討へ



諏訪湖における自然護岸化の事例
https://www.kubota.co.jp/siryou/pr/urban/pdf/36/pdf/36_5.pdf

他に考えたい取組み、
考えられる可能性

鳥を観るためのシェッドを
ヌマギワに

ヨシ焼き

管理動線と遊歩道を兼ねた
ボードウォークづくり

刈り取ったヨシやガマを
現地で処理したい

事例：竹芝・WATERS の干潟

ひとつながりのヌマベを目指して

21 世紀手賀沼八景（夕陽の視点場）を育てよう

step1 手賀曙橋・手賀沼調整水門の価値評価

・水門撤去、手賀曙橋架け替えが検討されていることの情報発信
・手賀曙橋の交通上、景観上の価値の調査
・ヘリテージ（土木遺産）としての価値の発信
・夕陽＆写真コミュニティを取り込んだヌマベクラブの運営

step2 水門管理小屋の暫定利用

・手賀曙橋を活用したイベントの開催
・水門管理小屋の内見、実測調査、利用可能性の議論
・水門管理小屋のヌマベクラブによるリノベーションと活用
・農水省、土地改良区、専門家、市民合同での議論の場づくり

step3 電線地中化＆ビューポイント整備へ

・曙橋再架橋整備デザインコンペの実施
・手賀曙橋と水門を生かしたテラス空間の整備
・堤防そのものに大階段化して視点場に
・夕陽の眺めを遮る電柱、電線の地中化

関東農政局手賀沼干拓建設事業所編『手賀沼』1977

21 世紀手賀沼八景

我孫子市、柏市、沼南町で結成した『手賀沼を生かしたまちづくり推進委員会』の活動の一つとして、住民から応募のあった中から、眺望のすばらしさ、風情が感じられるところとして、2000 年 12 月に『21 世紀手賀沼八景』が選定された。あけぼの橋もその一つに選ばれている。（写真は左が 1977 年、右が 2020 年の手賀沼調節水門）

景観を活かす

水際の立地を活かす

参考：COEDA HOUSE（熱海）
https://www.travel.co.jp/guide/article/32125/

BEFORE（現状）

AFTER（イメージ）

numacafe からの景色／電線地中化モンタージュ

他に考えたい取組み、考えられる可能性

夕市・サンセットライブ

事例：鞆の浦の「雁木」

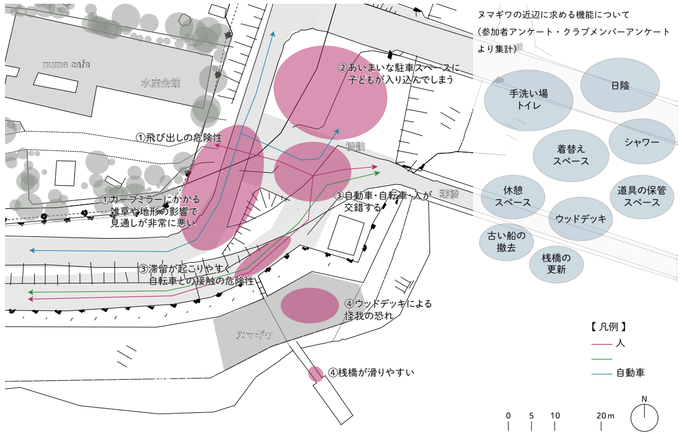
事例：「洗堰レトロカフェ」

ひとつながりのヌマベを目指して

みんなが渡れるみちづくりへ

step1 橋詰の人・自転車・車の棲み分け実験

・橋詰の道路余地における人・自転車・車の棲み分け実験
・手賀沼フィッシングセンターの歩行者用出入口部の安全対策実験
・実験結果を関係行政と共有する機会づくり
・水門管理小屋の外壁や外部空間の利活用


numa cafe
①飛び出しの危険性
②あいまいな駐車スペースに子どもが入り込んでしまう
③自動車・自転車・人が交錯する
①カーブミラーにかかる雑草や地形の影響で見通しが非常に悪い
③滑雪が起こりやすく自転車との接触の危険性
④ウッドデッキによる怪我の恐れ
④桟橋が滑りやすい
ヌマベ
野鳥
ヌマベ
ヌマベ
ヌマベ

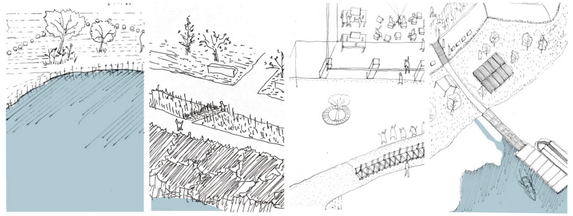
ひとつながりのヌマベを目指して

水をたどる小さな冒険をつなげていこう

step1 ヌマベのトレイルづくり

- 場所と場所をつなぐ、茂みをかき分けるような「トレイル」（小径）を自分たちで整備
- 子どもたちと奥へ奥へ探検する小さな冒険を演出
- あまりうまく使えていない場所を、探検の道に

トレイルの例



ヌマハリでつくったトレイル

キャンプサイトのトレイル状の入口

step2 水の流れの見える化・さわれる化

- 子どもと一緒にフィッシングセンターの水のルート探索＆浄化実験
- 漁協エリアを「さわれる水路」を増やしながら順次改修
- 水の流れに沿って小さな冒険を促す活動＆看板づくり

「さわれる水路」を中心とした釣り堀エリアのエントランスイメージ

参考事例：島原武家屋敷街の水路
https://www.walkerplus.com/trend/matome/article/155597/

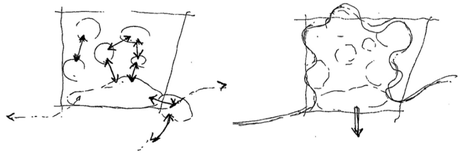
参考事例：水前寺江津湖公園の水路
http://blog.livedoor.jp/landscapedesign/archives/2011-08.html?p=2

step3 漁業と市民のコラボレーションへ

- 「シードバンク」「希少種の生育」「アクアポニックス」などを通じて、漁協と市民が活動を共有する生簀活用を考えてみる
- 漁業者のなりわいに近づける空間づくり
- 社会科見学など、地元の学校と漁業者の接点づくり

参考事例：Aquaponic Ecosystem
https://inhabitat.com/abandoned-factory-in-china-becomes-a-giant-floating-field-of-fish-and-algae/

他に考えたい取組み、
考えられる可能性



大きな「めぐり」をつくっていく

- 遊休生け簀を少しずつひらいて、ぐるっと一周できる手賀沼フィッシングセンターに
- 国交省敷地や道路脇の草むらを、許可を得てトレイル整備
- イベントなどでうまく使えるトレイルは、防草舗装などを施す
- フィッシングセンター周りを広く探検できる回遊性高いフィールドに

ひとつながりのヌマベを目指して

連続したウェットランドを回復しよう

曙樋管、若鮎樋管の入り江の「わんど化」

- 手賀川浄化施設の取水口／排水口である曙樋管／若鮎樋管（＝稼働停止中）の改修
- 入江の形状を生かしてエコトーンや人工魚礁などの実験、再生の場に

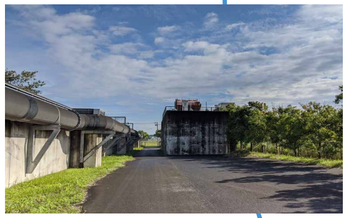
我孫子市野球場の「天然芝生化」

- 土のグランドの天然芝生化
- グランドまわりの余地を野花の咲く「原っぱ」に

https://www.facebook.com/abiko.jr.baseball/

手賀川浄化施設を「大観察池」として逆開発

- 年間通して浅瀬＝水がある湿地的環境として逆開発する。
- 手賀沼～自然護岸～観察池～大観察池～田んぼのつながりを創出
- もともとの浄化施設の形や給排水設備を活かす
- 冬水田んぼでの水鳥観察を



他に考えたい取組み、
考えられる可能性

事例：都立水元公園

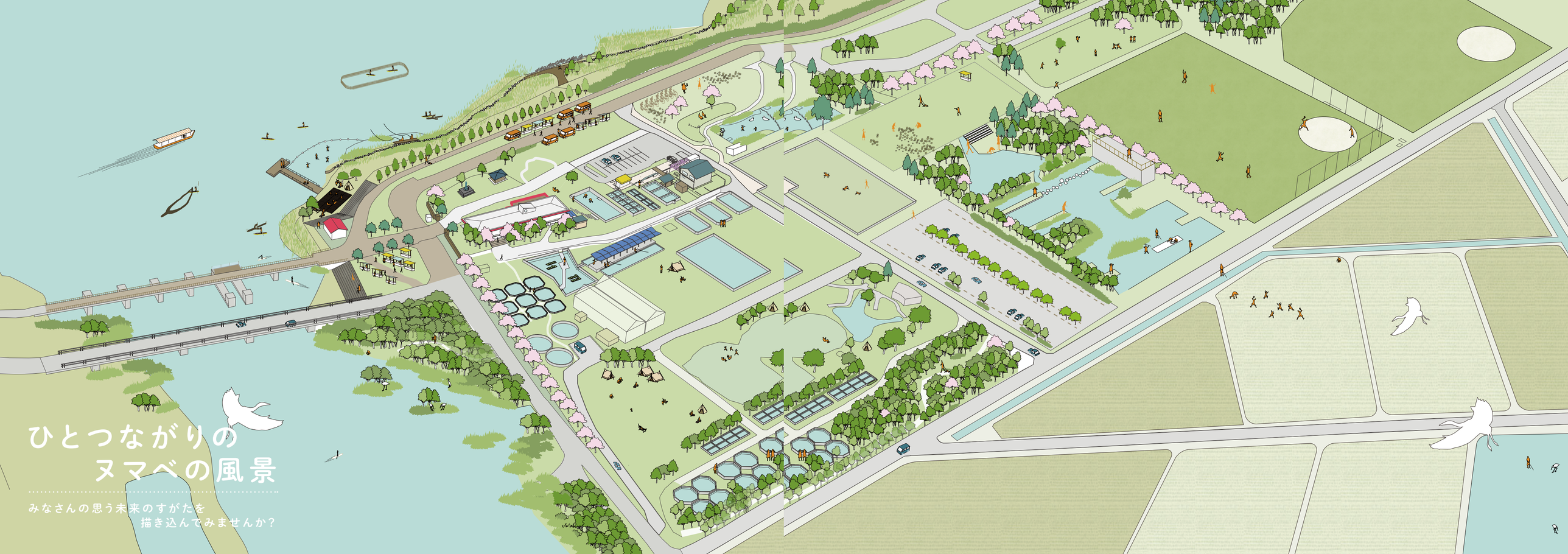
改修前（2000年2月）

水元小合溜の隣部に接してつくられていたコイ、フナなどの食用淡水魚の養殖池

改修後（2006年9月）

養殖池のコンクリート護岸の一部を開削し小合溜につなぎ、残した護岸は土手として取り込み、急深だった養殖池を遠次浅くして湿生植物によって飛びつなげたことによって、多くの動植物の生息空間が広がった

山本紀久『造園植栽術』より引用


ひとつながりの
ヌマベの風景
みなさんの思う未来のすがたを
描き込んでみませんか？

マスターコンセプトブックに　寄せて

テガヌマウィークエンド（社会実験）で聞かれた声

ヌマベクラブメンバーからの声

作成に携わった学生たちの声

新松戸造園

代表取締役　松戸克浩

マネージャー　廣川真知子

「緑道」でつながる地域の輪づくりを

千葉県立手賀沼自然ふれあい緑道の指定管理者の（株）新松戸造園です。「地域に密着し、人と自然が調和した持続可能なまちづくりに貢献したい」を理念に掲げ、造園建設業を営んでいます。

私たちは、都市公園であるこの緑道を居心地よい空間として維持管理すると共に、「緑」をフィールドにコミュニティ形成、環境を活かした体験プログラムの実施、クリーンアップ活動等、地域の活性化に取り組んでいきたいと思います。

地域の課題やニーズが多様化していく中、連携・協働して問題に取り組むことで、更なる魅力発信、手賀沼の輪が広がっていけば良いなと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

手賀沼まんだら

代表　澤田直子

手賀沼がある暮らし

澄んだ水の中に様々な生き物が暮らし、子ども達が泳ぐ・・・そんな手賀沼にするために今、できることってなんだろう？答えは大人にだってわからない。だったら、未来を生きる主役の子どもたちと一緒に遊びながら見つけていこうよ！（2020 年 11 月 7, 8 日開催「てがぬまこどもマルシェ」より）

私たちは手賀沼流域をフィールドに外遊びでつながるコミュニティです。手賀沼の豊かな自然に魅せられて、この自然を遊び倒す先にある未来を子ども達と仲間と一緒に見つめています。

「奥手賀・水辺の拠点マスターコンセプトブック 2020」の「ひとつながりの沼の風景」の絵を見た時、ワクワクが溢れました！冒険が始まる！

てがぬまパドルクラブ

立石正美

みんなで楽しむヌマベ・いつでも心にワクワクを！

手賀沼の魅力ってな〜に？

水辺に身を寄せてみようよ。色々な人が集っていてたくさんの生き物もいる。整備された公園やふれあい緑道・朝陽や夕陽だってとても綺麗。パドルクラブキッズ達はヌマダイブが大好き。良いところがいっぱいです。身を寄せれば興味が湧いてきますよね。

てがぬまパドルクラブは、大人も子供もワクワクする企画で、手賀沼の魅力を「SUP」を通して伝えていけたら幸いです。

現在、新松戸造園様の「クリーンアップ大作戦」をコラボさせて頂いております。ヌマ掃除のワクワクから〜沼底の泥を使って…〜ごみでアート〜と、どんどんヌマベクラブの輪が広がっています。

みんなで楽しむヌマベ。夢はヌマで運動会！来年はどんなワクワクが広がっているかとても楽しみです。

てがぬまパドルクラブ

澤田佳弘

こころ動くヌマベの風景

私は、場面に応じた遊び方・楽しみ方があり、冒険心を掻き立て癒しを与えてくれる SUP が大好きです！その SUP が、身近な手賀沼の「こころを耕す場」「ひとつながりのヌマベの風景」の１つになる。こんな魅力的なことはありません！

てがぬまパドルクラブでは、アイデアしだいで可能性無限大の SUP を活用した、子供から大人まで楽しめる企画を発信していきます。また、新松戸造園さんとの「クリーンアップ大作戦」のように、コラボすることでより拡がりある企画が生み出せたらとも思っています。

そして今後、少しずつ自然護岸が実現し境界のないフィールドが拡がり、皆さんと一緒に、今でも魅力的な手賀沼の風景を、さらにどんな素敵な風景にしていくことができるのか、想像するだけでこころが踊ります。

VIVITA

クルー　小村陽子

ヌマの可能性は広く、深い

VIVITA は、自分たちの好奇心やもやもやを出発点にし、暮らしに必要なものを、遊びや共創活動を通してかたちにしていくコミュニティです。

我々が手賀沼で活動するようになったのは、東大の永野先生が、柏の葉の調整池での我々の取組みに興味を持ってくださったことがきっかけでした。手賀沼で一緒に活動できないかとお誘い頂き、２年前より屋外でのものづくり企画を実施させて頂くようになり、今に至ります。ヌマベで活動をしているうちに、何やら面白い活動が展開されるヌマ環境や主体的にヌマに関わる人の魅力に見事にはまりました。

色々な想いを乗せた活動が多数展開される一方で、共通するのは「この場をより良くしたい」という想いなのではないかと思います。手賀沼を中心に繋がる皆さんと一緒に、「自分たちの場をより良くしていく」答えのない問いに向かって、イベントでは終わらない活動ができたらいいなと考えております。

GP-Canoe Tourism

代表　田崎悟

水辺アクティビティとマナー

水辺アクティビティをする際に注意したいことは、そこがすべての人たちに解放された共有空間であるという認識を常に持ちながら活動することである。静かに釣りを楽しみたい人もいれば、にぎやかに楽しみたい人もいる。

それは相反するものであり、時に衝突を生みやすい。そのような衝突は双方にとってマイナスなだけではなく、自然の中での人間同士のトラブルという醜態をさらすこととなる。そのようなことにならないよう最低限の環境整備やルール作りが求められる。また基本的なマナーとして、現地でのコミュニケーションを心がけ、お互いを尊重する態度を忘れないことが肝要であろう。

一般社団法人水辺荘 メンバー
川井透匡

ヌマベ探検

水辺を探検する OSSAN パドラーです。普段は手賀沼と横浜などで SUP を漕ぎ、水辺から街の賑わい創出をテーマに活動しています。

2019 年「ヌマベピラキ」で手賀沼とヌマベクラブの皆さんに出会い、2020 年「ヌマベクラブ」に参加して、ずぶずぶとヌマにハマり込みました。ヌマベ探検の面白さと奥深さを、ヌマ SUP ツアーや SNS を通じてたくさんの人たちと共有したいと思います。拡張される道の駅しょうなんに訪れる人たちを、ヌマギワとヌマ水面へ連れ出せたらいいな！と妄想しています。

手賀沼まんだら
ものづくりプランナー／グラフィックデザイナー
藤倉たまき

ヌマベはワクワクを くれる場所

グラフィックデザイナーという職業を活かし、手賀沼まんだらがヌマベで行うイベントの告知ポスター、WEB サイト、T シャツなどのデザインをおこなってきました。

今はデザインだけでなく、ヌマベクラブの他団体のみなさんとのコラボ企画などに関わっています。

自身の職業スキルや得意なことを活かし、地域に貢献しよろこんでもらえることは素直にうれしいですし、これまでの生活では出会えなかったステキな方たちとの出会いは、私にとって最高の財産となっています。

こどももおとなも好奇心全開でほんとに毎日ワクワクしています。これからもこの輪をたくさんの方につなげていきたいです！

手賀沼水生生物研究会
事務局　半沢裕子

見たい！知りたい！守りたい！ 水辺の生きものたち

手賀沼水生生物研究会は 2007 年、手賀沼におけるオオクチバス駆除をきっかけに誕生しました。手賀沼や利根川流域で生きもの調査をしたり、観察会をしたり、我孫子市内の池で希少種オオモノサシトンボを保全するなどの活動を行っています。また最近は、手賀沼の環境保全に取り組む「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」の一員として、外来水生植物対策にも関わっています。

水辺の生きもの保全活動に取り組んでいると、毎年水環境が悪化し、生きものが衰退していることを強く感じます。せっかく手賀沼を楽しむなら、生きものの気配が濃く、豊かな手賀沼を楽しみたい、楽しんでほしい。手賀沼に遊びつつ、手賀沼の保全を一緒に考えていただければ嬉しいです。

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会
事務局　鈴木亮平

手賀沼と ともに歩む

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会は、地域の農業振興、そして地域全体の活性化を目標に活動してきました。その中で気付かされたのは、手賀沼をフィールドに多様な活動や取り組みが展開されているということです。農業や漁業だけでなく、生き物、子育て、福祉と、実に様々な視点やテーマから魅力的なアクションが生み出されています。担い手も多様で、地域の農家、事業者、市民団体等、様々な組織や団体が活動されています。そして、どの活動にも共通するのが、手賀沼という魅力的な場所を守っていきたい、豊かな暮らしの場として築いていきたい、ということです。手賀沼の自然環境、地域の歴史・文化はもちろん大きな財産ですが、手賀沼を舞台に展開されているこうした活動一つ一つも、手賀沼を豊かにしていく財産だと感じています。

「水辺の拠点」では、担い手同士が手を取り合って、互いに学び合って、より魅力的な活動へと歩みを始めています。マスターコンセプトが、そうした動きの指針となり、後押しするきっかけとなり、さらに魅力的な手賀沼を育んでいくことを願っています。そして、マスターコンセプトの下、さらに多くの方が手賀沼の魅力に気付き、そこで過ごす豊かな時間を大切にし、一緒に手賀沼という場所を守っていくことができれば、とも考えています。マスターコンセプトは、手賀沼を愛するみなさんと共に進め、一緒に動かしていくものです。ぜひお力を貸して頂ければと思います。

手賀沼まんだら
渡辺玲衣

ヌマベに近づく、関わる

～多様な生きもののうちの一種として～

初めて環境観察池を見た時、手賀沼みたいだと思いました。浅くて広くて栄養のある水が入ってくる。時間を早送りして脳裏に浮かんだのは、エコトーンが再生され、水中にも水上にも多様な生物がいる水辺でした。子どもたちが立てた水音や歓声で、生きものたちがざわざわっと逃げていく、そんな水辺です。

「汚い」「危ない」と言われ、子どもたちにとって近づくのが難しい水辺。でもここだったら？感性が豊かな未就学児でも自由に遊べるのでは？ここでの体験を礎に、好奇心を手賀沼へ広げていけるのでは？そんな問いが立て続けに浮かんだことを覚えています。

現在、月に１回催している観察会では、その光景が現実のものとなりつつあります。ヒメガマの葉が風に揺れて擦れ合う音を聞きながら、息を潜めて水底に目をやれば、安心して集う仔魚や呑気に泳ぐ水生昆虫が。パチパチっという音で顔を上げれば、トンボ同士が縄張り争い。もちろん課題もたくさん。ワークショップでは、課題をそのまま教材にして、皆で考え、実験してきました。いま見えている風景は、課題に向き合ってきた成果なのです。そんな心持ちでいると、マスターコンセプトに描かれる未来も、あながち叶わないものではないと思えてくるのです。

東京大学都市デザイン研究室
M2　松本大知

ヌマベの目指す方向

「マスタープラン」ではなく、「マスターコンセプト」という点がミソだと思います。誰かが上から決めつけたものではなく、空間に集まる地域の人々の活動や意見が集まって出来上がったと言えるのではないでしょうか。

そして、これからもヌマベを楽しむみんなで相談してつくり替えながら、ヌマベが目指す方向を決めていく「ヌマベの羅針盤」として共有していければいいなと思います。

東京大学都市デザイン研究室
M2　砂川良太

「ひとつながりのヌマベ」を願って

「マスターコンセプト」という言葉は多くの方にとって、耳馴染みない言葉かもしれません。私たちにとっても新しい言葉でした。そこには「地域の方々と一緒につくっていきたい」という気持ちが込められています。

一つの「正解」を求めるのではなく、ちがう魅力をもった空間、異なる価値観をもった人や団体が手を取り合った、「ひとつながりのヌマベ」が実現することを願います。

東京大学都市デザイン研究室
M2　佐鳥蒼太朗

地域のコラボでヌマベを育む

2019 年､はじめて訪れた「水辺の拠点」にはがらんとした「空間」だけが存在していました。しかし、瞬く間にその空っぽだった器に地域の方々の活動が集まり、活気あふれる「場」へと昇華しました。

その過程で見たのは多様な人々によるコラボレーション、協働の持つ力です。これからも手賀沼を愛する皆様によるボトムアップの市民参加で「水辺の拠点」､「マスターコンセプト」を育んでいただければと思います。

東京大学都市デザイン研究室
M2　西野一希

子どもたちが創るヌマベ

活動の中で最も印象的だったのは、ヌマベを使いこなす子どもたちの姿でした。彼らは本能のままに遊び、学び、そして関わりのなかった家族同士を繋ぎ合わせている光景を目の当たりにしました。この「マスターコンセプト」は随時改訂していくことが想定されています。

子どもたちの視点で洗練し、そして彼らが成長した際には次の 30 年を描く新たな「マスターコンセプト」を創造してもらいたいです。

東京大学都市デザイン研究室
M1　鈴木直輝

ヌマベクラブのこれからに期待して

ヌマベクラブの章を主に担当し、実際にその立ち上げにも関わらせていただくという経験はとても刺激的でした。ヌマベクラブの将来を描く時には、クラブメンバーである公民学漁の皆さまが頭に浮かび、夢が膨らみました。互いに手を取り合って、みんなで楽しむヌマベをつくっていくという唯一無二の組織であると思います。今後も更新されるマスターコンセプトを道標にした、水辺の拠点とヌマベクラブのさらなる展開が楽しみです。

東京大学都市デザイン研究室
M1　谷本実有

ヌマベの未来を想う

未来のヌマベの風景を想い描き、絵にする作業はとても心が躍りました。一年間、ヌマベで様々な活動が芽生え、観察池の生きものは多様になり水鳥も訪れる、そんな様子を目にして水辺の拠点がさらに魅力的で素敵な空間となってゆく想像が膨らみました。関わっていただいた皆様、読んでくださった皆様に感謝申し上げます。このブックを土台にヌマベの将来を想像し語り合い、思い思いのヌマベを描き加えていただけたら嬉しく思います。

東京電機大学
B4　能浦未帆

一緒に思い描きましょう

学外からの参加という少しイレギュラーな形ながら、マスターコンセプトブックの作成に微力ながら携わらせていただき、非常に貴重な経験が出来ました。この本が、みなさんの「こうなったらいいなというひとつながりのヌマベ」を思い描いてみるきっかけになると嬉しいです。

これからも水辺の拠点を中心に魅力あふれる豊かな空間が広がり続け、より一層奥手賀のヌマベがみなさんの心の拠り所になるといいなと思っております。

奥手賀・水辺の拠点

マスターコンセプトブック2020

2021年3月発行

発行：　手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会
　　柏市農政課アグリビジネス担当

協力：　手賀沼漁業協同組合
　　渡辺玲衣（手賀沼まんだら）

作成：　東京大学大学院都市デザイン研究室
　　助教　永野真義
　　学生　松本大知、佐鳥蒼太朗、砂川良太、西野一希
　　鈴木直輝、谷本実有
　　能浦未帆（東京電機大4年）

WHERE
NEW
ADVENTURES
BEGIN